

## 和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 富谷, 銚太郎 / 栗津, 清亮 / 梅, 謙次郎 / 赤  
司, 鷹一郎 / 杉本, 貞治郎 / 金井, 延

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-13

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1899-08-10

多梅

和佛法律學  
講義筆記

每月貳回

第拾參號

目次

商法修正要領	(自三五頁至三五頁)	法學博士 梅謙次郎
經濟學	(自七九頁至八九頁)	法學博士 金井延
商法保險	(自三七頁至五二頁)	法學士 粟津清亮
手形法	(自二〇頁至二三頁)	法學博士 富谷銚太郎
商法商行爲	(自三一頁至三六頁)	法學士 赤司鷹一郎
商法總則	(自六五頁至七二頁)	法學士 杉本貞治郎
財政學	(自三八頁至四八頁)	法學士 下村宏

天



090  
1899  
2-1-13

習ニ依ルノ意思ヲ有セシトキハ其慣習ヲ適用セサルヘカラス民法第九十二條ノ規定ハ左ノ如シ

法令中公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行爲ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從テ而シテ商法第一條ニハ「商事ニ關シ商法ノ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用ス」トアリ此二個ノ場合ヲ對照スルトキハ恰モ事實タル慣習ノ効力ハ慣習法ニ優ルカ如シ而シテ此點ヲ説明スルハ一般學者ノ頗ル困難トスル所ナリト雖モ予ハ寧ロ太タ容易ナリト信ス何トナレハ先ツ事實タル慣習ハ當事者カ之ニ依ラント欲スルノ意思アルニアラサレハ全ク其効力ヲ有セスト雖モ之ニ反シ慣習法ハ當事者ニ於テ之ニ依ルノ意思ヲ有セサルトキト雖モ其効力ヲ有シ隨テ其適用ヲ免ルヽコトヲ得ス此點ニ於テ商慣習法ノ事實タル商慣習ニ優レルコト明ナリ次ニ事實タル慣習ト慣習法トヲ別物ノ如ク思考スルハ甚ダシキ誤ナリ抑モ慣習法トハ如何ナルモノヲ云フカ事實タル慣習ヲ當事者ヨリシテ又主權者ヨリシテ權利義務ノ淵源ト爲ルヘキモノト認メタルモノニ外ナラス換

言スレハ此慣習法ハ極メテ漠然タルモノナリト雖モ現ニ角權利義務ノ淵源ト爲ルヘキモノトシテ或慣習ト爲レル事實ニ法律ノ効力ヲ付シタルニ外ナラス即チ其本質ハ一種ノ事實タルコト言フヲ俟タヌ是レ法例ノ規定ヲ一覽スレハ容易ニ了解スルコトヲ得ヘシ其第二條ニ曰ク

公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ノ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限り法律ト同一ノ効力ヲ有ス

ト即チ此規定ニ依リテ事實タル慣習ト雖モ右ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ慣習法ト看做スニ在リ故ニ慣習法ト慣習トハ別物ニアラス隨テ商法ニ規定セル事項ニシテ之ニ異リタル慣習ノ存在セル場合ニ於テ其慣習カ慣習法ト看ラル、場合ニ於テモ其慣習法ハ少クトモ事實タル慣習ト同一ノ効力ヲ有スルモノニシテ當事者ニ於テ之ニ依ルノ意思ヲ有セシトキハ即チ其慣習法ハ行ハレテ商法ノ規定ハ行ハレサルナリ是故ニ事實タル慣習カ却テ慣習法ヨリ多クノ効力ヲ有スルニアラスヤトノ論ハ誤レリ

以上ハ即チ商法ト商慣習法及ヒ民法トノ關係ニシテ舊商法ニ於テハ其關係甚タ不明ナリシカ新商法ニ於テハ之ヲ明瞭ニセリ

### 第三章 小商人

舊商法ニ於テハ小商人ナル名稱ナシ唯其第七條ニ於テ「左ニ掲クルモノハ之ヲ商取引ト看做サス」ト規定シ下ノ如キモノヲ示セリ

#### 第一 (之ヲ省ク)

第二 戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト

但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス

第三 専ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト

第四 他人ノ爲メニ動作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ掲ケサルトキニ限ル

然レトモ是レ甚タ了解ニ苦シム所ナリ蓋シ此等ノ取引ヲ商取引ト看做サスト

スルトキハ之ニ商法ヲ適用スルコトヲ得サルヲ以テ自ラ民法ノ規定ヲ適用セサルヘカラス其結果トシテ重大ナル商取引ハ簡便ナル商法ノ規定ニ依リテ支配セラル、ニ拘ラス此等輕微ナル取引ハ却テ鄭重ナル民法ノ規定ニ依リテ支配セラレサルヘカラス是レ實ニ理由ナキコト、ス故ニ新商法ハ其第八條ニ於テ左ノ如ク規定セリ

戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス

蓋シ舊商法ニ於テ前陳ノ如キ些細ナル取引ヲ商取引ト看做サストセシ所以ハ其理由書ニ依ルモ又其摸範タル獨逸商法ノ規定ヲ見ルモ畢竟商業登記商號商業帳簿等稍ヤ面倒ナル手續ヲ此等ノ取引ニ適用セサルノ精神ニ外ナラス即チ道路ニ於テ物ヲ販賣スル者ニ商號ノ必要ナク亦登記ノ必要モナシ例ヘハ飴賣ニ對シ商號又ハ登記ノ規定ヲ適用スルノ必要更ニナキカ如シ又商業帳簿ノ如キモ同一ニシテ五厘乃至一錢ノ飴菓子ヲ賣リテ糊口スル者ニ對シ一其收支ノ金額ヲ帳簿ニ記載セシムルカ如キハ到底實際ニ行ハルヘキニアラス故ニ舊

商法第七條ニ於テハ之ニ商法ヲ適用セスト規定シタル所以ナリト雖モ其規定汎博ニ失スル爲メ前述ノ如ク却テ不便ナル民法ヲ適用セサルヲ得サルカ如キ不都合ナル結果ヲ生シタルナリ新商法ハ此ニ見ル所アリ商號等三種ノ規定ニ限リ之ヲ右ノ商人ニ適用セサルコト、セリ而シテ舊商法第七條ニ列舉セルモノハ何レモ細小ノ商人ノミナリト雖モ中ニハ理論上商取引ニ入ラサルモノアリ此等ノモノハ固ヨリ之ヲ除カサルヘカラス然ルニ之ヲ除カサルノミナラス他ノ一方ニ於テハ例ヘハ戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ販賣セストモ細小ナル駄菓子店ノ如キハ宜シク第七條ノ除外ノ範圍ニ入ルヘキモノタルニ拘ラス同條ノ規定ニ依レハ此ノ如キモノモ亦商業登記商業帳簿等ノ規定ノ適用ヲ受ケサルヘカラス然レトモ右駄菓子店ノ如キモノハ道路ニ於テ菓子ヲ賣ルモノト毫モ異ナル所ナシ又燒薯屋ノ如キモ然リ此等ノ者ニ商業帳簿ヲ備ヘシムルカ如キハ到底行ハルヘキコトニアラス故ニ今回ハ此等ノモノヲ總テ除クノ必要アリトシテ其範圍ヲ定メント欲シ種々調査ヲ爲シタリレモ商法修正案ヲ議會ニ提出スルマテニハ其調査ヲ違タルコト能ハサリシヲ以テ單ニ第八條

ニ小商人トノミ規定シ商法施行法ヲ以テ小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコト、セリ而シテ其勅令ハ本年六月十五日第二百七十一號ヲ以テ之ヲ發布セリ(商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス以上ノ如キ理由ニ因リ小商人ノ範圍及ヒ其適用スル規定ニ關シ舊商法ト新商法トハ大ニ差異ヲ生スルニ至リシナリ)

#### 第四章 商業登記

舊商法ノ商業登記ニ關スル規定ニ依レハ(商號後見人未成年者婚姻契約代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ前項ノ營業所又ハ住所ノ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尙ホ存スル場合ニ限り移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受クヘシ(舊商法第一八條)トアリ此ノ如ク單ニ營業所又ハ住所ノ裁判所トノミ規定スレトモ(豪商殊ニ會社等ニ於テハ大抵支店ヲ有セリ例ヘハ東京ニ本店ヲ有シ而シテ大坂ニ支店ヲ有シ又ハ大坂ニ本店ヲ有シ而シテ東

京ニ支店ヲ有スルカ如ク本店ノ外別ニ支店ヲ有スル者甚タ多シ然ルニ右第十八條ノ規定ハ本店ノミニ於テ登記ヲ爲スヘキカ將タ支店ニ於テモ登記ヲ爲スヘキカ又若シ双方共ニ登記スヘキモノトセハ其登記スヘキ事項ハ同一ナリヤ否ヤ甚タ不明ナリ隨テ第十八條ノ解釋ハ人ニ因リテ同シカラス然リ而シテ登記ナルモノハ廣ク他人ヲシテ其事項ヲ知ラシムルヲ以テ目的トス故ニ縱令本店ノミニ於テ登記ヲ爲スモ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲サルトキハ一般ニ其事項ヲ知了セシムルコトヲ得ス隨テ登記ノ目的ヲ十分ニ達シタルモノト謂フヘカラス仍テ新商法ニ於テハ其第十條ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

例ヘハ後ニ説明スル如ク支配人等ニ付テハ本店ノ支配人ト支店ノ支配人トハ其人ヲ異ニスルコトアリ而シテ此場合ニ於テハ本店ノ支配人ヲ支店ニ於テ登記スルノ必要ナキト同時ニ支店ノ支配人ヲ本店ニ於テ登記スルノ必要ナシト雖モ此ノ如キ特別ノ規定ナキ限リハ本店ニ於テ登記スヘキ事項ハ支店ノ所在

地ニ於テモ悉ク之ヲ登記スヘキモノトモリ是レノ改良ナリトス尙ホ登記ニ關シ一ノ改良シタル點ハ登記公告ノ効力ニ關スル規定ニシテ舊商法ニ於テハ登記ノ効力ニ付キ單ニ登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ己レノ過失ニ非サルコトヲ證シ得ルニ非ザレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レヲ保護スルコトヲ得ス然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其効用ヲ致サシム但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム(舊商法第二二條)トノミ規定スルニ過キス是レ實ニ不明ナル規定ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ登記シタル事項ハ更ニ公告セサルヘカラス(舊商法第一九條)而シテ登記シタル事項ハ公告シタル事項ト通常符合スヘキモノナリト雖モ時トシテハ相一致セタルコトアリ例ヘハ會社ノ登記ニ關シ甲ナル者ハ若干ノ出資ヲ爲シ又乙ナル者ハ若干ノ出資ヲ爲スコトヲ登記セリ然ルニ其登記シタル事項ヲ公告スルニ際シ過テ例ヘハ十圓トアルヲ千圓ト記シ二百圓トアルヲ三百圓ト記シタリトセン此ノ如キ場合ニ於テハ公告ヲ正シキモノト視ルヘキカ將タ登記ヲ正シ

ヲ見ルヘシ一國ノ經濟現象ノ各國ニ影響ヲ及ホスコト實ニ此ノ如シ彼ノ孟宗竹ノ相場ノ如キ我開國以前ハ勿論其ノ當時ニ於テモ敢テ外國ノ影響ヲ被ルコトナカリシモ一タロ米國人ニ由リテ孟宗竹ヲ電燈ニ用フルノ利ナルコトヲ發明セラレシヨリ以來其ノ相場ハ各國一定スルノ傾向ヲ現ハスニ至レリ又以テ現今ニ於ケル經濟現象ノ世界的ナルヲ知ルニ足ラン唯稀ニ原料及ヒ物品ニシテ一國內ニ於テノミ使用セラル、場合ニ限リ外國ノ影響ヲ受ケタルアルノミ又時ニ或ハ一國カ法令ヲ以テ一定ノ經濟現象ヲ維持スルコトナキニ非スト雖モ到底之ヲ永續スルコトヲ得サルヘシ要スルニ現今ノ經濟現象ノ多クハ世界的ナリト謂フモ決シテ過言ニ非ス隨テボリチカル、ニコノミ<sup>1</sup>テフ語モ亦小ヨリ大ニ變化セルヲ知ルニ足ルヘキナリ

右陳述スル所ニ反シ本邦并ニ支那ニ於テハ經濟ノ語廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小ニ推移シタルモノト謂フヘシ何トナレハ支那ニ於ケル經字ノ使用法ヲ見ルニ易ニ君子以<sup>2</sup>經綸<sup>3</sup>トアリ周禮ノ天官ニ大宰以<sup>4</sup>經邦國<sup>5</sup>トアリ其註ニ經法也王謂之禮<sup>6</sup>經常<sup>7</sup>所乘<sup>8</sup>以<sup>9</sup>治<sup>10</sup>天下<sup>11</sup>者也<sup>12</sup>トアリ又左傳昭公二十五年ニ爲<sup>13</sup>夫婦外<sup>14</sup>內以<sup>15</sup>經<sup>16</sup>二物<sup>17</sup>下

アリ註ニ「夫治外婦治內各治其物」ト解セリ又詩ノ大雅ニ「經之營之」ノ句アリ  
 註 經濟ヲフ語ノ使用法ハ日本及ヒ支那ニ於テハ廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小  
 ニ推移レリ其ノ證據ハ之ヲ我國及ヒ支那ノ古書ニ徵スレハ明カナリ先ツ支  
 那ノ古書ニ就テ經字ノ如何ニ使用セラレタルカヲ見ルニ易ニ在ル經綸ノ熟  
 語ハ一身一家ヲ整理スルカ如キヲ謂フニ非スシテ極メテ廣大ナル意義ヲ  
 有スルモノナリ又周禮ニ「大宰以經邦國」トアリテ此ノ經ヲ文字ノ如何ニ廣  
 義ニ用ヒラレタルカハ註ニ「經法也」王謂之禮經トアルニ依リテ知ルコトヲ得  
 ヘシ即チ經トハ邦國ヲ治ムル所ノ法ニシテ王者用ヒテ邦國ヲ治ムルトキハ  
 之ヲ禮經ト曰ヘリ蓋シ當時ニ在リテハ現今ナラハ純然タル法律關係ニ屬ス  
 ル事柄ニテモ多少德義ニ任セタルモノナルニ由リ禮ノ字ヲ加ヘタルモノナ  
 ラム故ニ禮ノ字ハ道德ニ重キヲ置ク所ノ形容詞ナリト視テ可ナリ即チ經ト  
 ハ治國ノ法則ノ謂ニシテ頗ル廣義ニ使用セラレタルモノナリ次ニ左傳ニ  
 所謂「夫婦外內以經二物」トハ其ノ註ニ言ヘルカ如ク「各治其物」ノ意ニシテ  
 夫ハ外ニ對スル事ヲ掌リテ之ヲ整理シ婦ハ內事即チ家内ヲ整理スルノ意ニ

シテ各自専門ノ職分ヲ守ルヘキヲ謂フナリ而シテ此ノ如キ思想ハ今日ノ經  
 濟學ニ於ケル分業ノ理論ヨリ出テタルニ非サルコト勿論ナリト雖モ男女各  
 其ノ職分ヲ守ルヘキコトヲ言ヘルモノナレハ多少分業ノ思想ノ包含セラレ  
 ハモノナリト謂フヘシ而シテ是レ稍狹義ニ用ヒタルモノナリ

其他常ニ經緯、經度、經紀等ノ熟字ノ存スルヨリ之ヲ推スニ經字ハ動詞トスレハ  
 治ムルノ義ニシテ名詞トスレハ治道ノ常則ヲ指シ其ノ中ニ自ラ一致、和合、整理  
 秩序等ノ意味ヲ含有スルコト明カナリ濟ノ字ハ齊ノ字ニ通シ定、調整等ト同様  
 ノ意義ヲ有シ經ノ字ト大差ナシ而シテ經ト濟トノ二字ヲ連用シテ經濟ト曰フ  
 トキハ西洋語ノ「エコノミー」ニ該當ス

註 經ノ字ハ之ヲ經緯、經度、經紀等ノ熟語用ヒラル、ニ依リテ見レハ動詞ト  
 シテハ治ムルノ義ニシテ名詞トシテハ治道ノ常則ヲ指ス故ニ經ト云ヘハ自  
 ラ常道ニ則ル所ノ法則ヲ指スモノニシテ正當ナル者ノ踏ムヘキ道ヲ謂フモ  
 ノナリ故ニ經ノ字ノ中ニハ自ラ一致、和合、整理、秩序等ノ意ヲ包含スルコト知  
 ルヘキナリ然ラハ濟ノ字ハ如何ト云フニ是ハ齊ノ字ト同義ニ使用セラル、



字ニシテ調定整等ト同様ノ意義ヲ有ス殊ニ齊ノ字ハ等ウスルノ意ニ用フルコト多シ等ウスルハ即チ同ウスルニ當リ同ウスルハ即チ一致スルニ歸ス故ニ濟ノ字モ經ノ字ト大差ナク共ニ一致和合整理等ノ意義ニ使用シ得ルモノナリ然レトモ經濟ト曰フ熟語ハ前ニ引用シタル書籍以後ニ於テ使用セラルハニ至リタルモノナリ

秦ノ時代ニ經國濟民ノ四字ヨリ出テタル經濟ノ熟語ヲ以テ之ヲ直チニ天下ヲ治ムルノ義若クハ天下理財ノ道ニ適用セリ本邦ニ於テモ亦然リ往時大宰純一書ヲ著シ之ヲ經濟錄ト名ク之ヲ讀ムニ其ノ其論スル所ハ治國平天下ノ道ナリ後世ノ人皆此二字ヲ同様ノ意義ニ用ヒ治國平天下ノ事ヲ論スルヲ以テ直チニ經濟ヲ談ル者ト爲セリ

註 經濟ヲフ熟語ハ秦ノ時代ヨリ生セリ秦ノ時代ニ經國濟民ノ四字ヲ約シテ經濟ト曰ヒ以テ經國濟民ノ四字ト同義ニ用ヒタリ故ニ經濟ト曰ヘハ天下ヲ治ムルノ義若クハ天下理財ノ道ト曰フノ義ヲ言ヒ表ハセリ我日本ニ於テモ亦之ヲ右ト同様ニ使用シ來レリ彼ノ徳川三百年間ニ於ケル屈指ノ學者タ

ル大宰春臺ハ經濟錄ナル書ヲ著ハセリ其ノ中ニ論スル所ハ現今謂フ所ノ經濟ニ關スル簡條ナキニ非サレトモ其ノ大部分ハ所謂治國平天下ノ議論ニシテ一ノ政治論ナリ而シテ該書ヲ名ケテ經濟錄ト曰ヘルヨリ觀ルモ經濟ヲフ文字ノ意義頗ル廣キ意味ニ於テ用ヒラレタルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ後世ノ人モ皆之ヲ同意義ニ用ヒ治國平天下ノ事ヲ談ル者ヲ指シテ經濟ヲ談ル者ト云ヘリ

其ノ後經濟ノ意味稍狹隘ニ用ヒラルコト、爲リ泰西ノ文物一タヒ我國ニ入リシヨリ以來此熟語ヲ財ヲ理メ國家ノ生存繁榮ヲ謀ルニ必要ナル原理原則ヲ攻究スル學術ニ用ヒ又一轉シテ一家ノ家計ニマテモ及ホシ一身一家ノ事ニモ適用スルニ至レリ故ニ本邦並ニ支那ニ於テハ經濟ノ意義大ヨリ小ニ推移リ廣キヨリ狭キニ適用セラレタルモノト謂フヘシ

註 經濟ヲフ語ハ初ハ唯治國平天下ノ事ノミニ用ヒラレタルモノナリ然ルニ治國平天下ノ道ハ富國強兵ニ在リトノ觀念ヲ生シ隨テ富ト云フコトニ聯絡ヲ生セリ而シテ天下ノ事總テ富即チ財源ヲ要シ財源ハ殖産興業ニ基ク

ヲ了解シ治國ノ事總テ國家財政ノ整頓ニ歸スルヲ知覺スルニ至リ大ニ富ト云フコトニ注意スルニ至レルハ自然ノ成行ナリト謂フ可シ是ヲ以テ治國平天下ヲ意味スル經濟テフ語ハ一變シテ天下理財ノ術ト云フ意味ヲ有スルニ至レリ蓋シ治國平天下ノ術ハ國家ノ理財ニ在レハナリトノ觀念ニ基ク其ノ後更ニ之ヲ擴メテ經濟ノ二字ヲ一家ノ家計又ハ一身ノ上ニモ適用スルニ至レリ歐洲ニ於ケル經濟學即チ「ボリチカルエコノミー」思想我邦ニ入リテヨリ以來其ノ治國平天下ト云ヘルカ如キ廣キ意味ニ使用セラル、モノニ非スシテ治國平天下ニ缺クヘカラサル富ノ現象ニ關スルモノタルヲ知り隨テ此ノ「ボリチカルエコノミー」ニ充ツルニ經濟學テフ語ヲ以テスルニ至レルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ日本及ヒ支那ニ於テハ經濟ノ文字ハ初メ廣ク用ヒラレ漸々狹ク用ヒラル、ニ至リタルモノト謂フヘシ支那ニ於テハ今日仍ホ治國平天下ノ意義ニ經濟ノ二字ヲ使用スル者アルカ如シ我國ニテハ今日己ニ之ヲ斯ル意味ニ使用スル者ナレ要スルニ歐洲ニ於ケル經濟テフ語ノ使用法ト我國及ヒ支那ニ於ケル使用法トハ全ク反對ノ變遷ヲ經テ結局同一ニ歸着セル

モノナリ

古來諸學者ノ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多キコト殆ト學者ノ數ノ多キニ等シ是レ斯學ノ尙ホ頗ル幼稚ナルヲ證スルニ足ルモノニシテ此等ノ定義ハ或ハ廣キニ流レ或ハ狹キニ失シ中庸ヲ得タルモノハ寧ロ少數ノ方ナリ

註 古來經濟學者及ヒ經濟學者ニ非ラサル他ノ人々カ與ヘタル經濟學ノ定義ノ極メテ多キニ拘ハラヌ其ノ中全ク相一致シタルモノナキノミナラス殆ト總テノ定義ハ互ニ相異レリト謂フモ過言ニ非ス尤モ大體ニ於テハ相一致スルモノアレトモ全然同一ナル者ハ一モ之アルコトナシ蓋シ經濟學ハ五十年來大ニ發達シタルニ拘ハラヌ他ノ多クノ學問ト異ナリテ定義ヲ始メトシテ種々ノ點ニ付キ議論頗ル多キヲ以テ觀ルモ其ノ發達仍ホ不充分ナルヲ證スルニ足ル今茲ニ一々此等ノ定義ヲ舉タルノ追ナキモ大體ヨリ論スレハ廣キニ失スルモノ狹キニ失スルモノ及ヒ中庸ヲ得タルモノニ區別スルコトヲ得ヘシ然リ而シテ最後ノモノハ極メテ少數ニ過キス蓋シ「アダムスミス」カ富國策ヲ世ニ公ニセシ以來茲ニ百二十餘年其間學者ノ輩出セシコト極メテ多キ

モ各其ノ見ル所ヲ異ニシ或ハ廣義ニ解シ或ハ狹義ニ解シ正鵠ヲ得タル者尠ナキハ慨スヘキコトナリ

米人ケリー氏一派ノ學者ハ經濟學ヲ以テ社會現象ノ總テヲ包含スルモノト爲シ甚シキニ至リテハ氏自身ノ如ク之ニ社會學ノ名稱ヲ下セリ經濟學史近時ノ傾向ハ將ニ漸ク同一ノ進路ヲ取ラントスルアルニ拘ハラズ予ハ斷シテ此風潮ニ逆フテ經濟學ト社會學トヲ混同スルノ非ヲ鳴サント欲スル者ナリ

註 經濟學ヲ解スルコトノ廣キニ失シタル米國ノ保護貿易論者ケリー氏并ニ氏一派ノ學者ハ經濟學ヲ以テ人類社會ノ現象ノ總テヲ論スルモノト爲シ甚シキニ至リテハ經濟學ノ語ヲ廢シテ社會學ト稱スヘキモノナリト主張セリケリー氏モ亦其ノ一人ナリ氏ハ經濟論ハ經濟學ニ於テ爲スヘキモノニ非スシテ社會學ニ於テ爲スヘキモノナリト曰ヘリ然ルニ今日マテノ所ニテハ所謂社會學ノ中ニ於テ經濟現象ノ總テヲ論スル者ナシ經濟學史ヲ見ルニ斯學近來ノ傾向ハ之ヲ以テ社會現象ノ總テヲ包含スルモノナリト爲スニ在ルカ如シ然レトモ予ハ斷然此二者ヲ區別セサルヘカラスト確信スル者ナリ何ト

ノ點ニ存ス例ヘハ千圓ノ保險價額アルモノヲ五人ノ保險者カ二千圓宛ノ保險金額ニ依テ覆フカ如シ保險金額カ保險價額ニ充タサル場合ハ其殘餘ニ付テハ被保險者自身カ共同保險ニ進入セリト謂フテ可ナリ勿論被保險者ハ自身ニ保險者タルニ非サレトモ自己ノ利益ハ自己カ保護シ自己ノ損害ハ自己カ賠償ノ責ニ任スルト云フ道理ヨリ保險セラレタル部分ニ付テハ自己自ラヲ保險者ノ地位ニ置ケルト考ヘテ可ナリ商法第三百九十一條ニ保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ムトアルハ即チ共同保險ニ於ケル損害填補ノ計算方ヲ定メタルモノニシテ共同保險者カ自己ナルト同シク保險者ナルトヲ問ハス適用セララルヘキ條項ナリ

被保險利益ハ現存セル利害關係ノ外ニ之ニ附隨シテ必然起ル所ノ損害又ハ費用ヲ包含ス例ヘハ商法第四百二十條ニ消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任ストアリ又第六百五十七條ニ積荷ノ保險ニ付テハ其積積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並

ニ保スル險ニ關費用ヲ以テ保險價額トス下アリ  
 他人ニ對スル責任賠償ハ保險ノ目的タルコトヲ得其最モ適例ハ前ニ述ヘタル  
 再保險ノ如シ一ノ保險者カ被保險者ニ對スル賠償ノ責任ヲ目的トシテ第二ノ  
 契約ヲ締結シタルナリ之ト同シク運送人倉庫主質屋等ハ其預リ物ニ對シテ被  
 保險利益ヲ有シ又鐵道會社カ線路ニ沿ヒタル家屋森林等ニ付テ火災保險ノ被  
 保險利益ヲ有スルカ如キハ一ノ好例ナリ  
 又必然ナル利益ノ希望ハ被保險利益タルコトヲ得我商法第四百二十四條第二  
 項ニ運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中  
 ニ算入ス下アリ又第六百五十八條ニ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬  
 ノ保險ニ付テハ云々下アリ其ニ現ニ存在セサルモ將來存在シ得ヘキモノハ保  
 險ニ付セラル、利益トスル、ナリ收穫保險ノ如キ場合ニ保險ノ目的物ハ契約  
 ノ當時ニ毫モ現存セス契約ノ際ハ茫茫タル田地ト蒔キタル種子ノミ其種子ノ  
 價ハ些少ノモノナリ然レトモ適當ノ勞力ヲ加ヘ一定ノ時期ヲ經ハ必然多量ノ  
 米ト爲リテ大ナル價額ヲ形成スヘキモノナルカ故ニ其價ヲ初ヨリ被保險利

益ト爲スコトヲ得ルナリ

次ニ被保險利益ノ存在セサル場合ヲ少シク舉ント欲ス

一、無効ナル契約ノ下ニハ被保險利益ナシ茲ニ一例アリ「ニウヨーク」ノ或農夫ノ  
 妻其子ニ口約ヲ以テ農作小屋ヲ讓渡セリ而シテ其子ハ之ニ付テ保險契約ヲ  
 締結セリ之ニ付テ保險上ノ爭議アリシ際裁判所ハ保險契約ヲ無効ト宣告セ  
 リ其趣意ハ「ニウヨーク」ニ於テハ不動産ノ移轉ニ付テ妻ハ夫ノ連署シタル證  
 書ヲ以テ之ヲ爲サ、レハ無効ナルカ故ニ無効ナル所有權ノ上ニ彼ハ被保險  
 利益ヲ有セスト云フニ在リ

二、不法ナル被保險利益ハ認メラレス縱令或利益夫レ自身ニ付テハ被保險者  
 カ正當ニ有スル場合ト雖モ彼カ不法ナル途ニ之ヲ利用セル場合ニハ之ニ關  
 スル保險契約ハ無効タリ例ヘハ人カ自己ノ所有セル船若クハ積荷ニ付テハ  
 當然被保險利益ヲ有スレトモ其船若クハ積荷カ密輸出ニ因リ又ハ戰時ノ禁  
 制ヲ犯シテ航行スル場合ノ如キニ於テハ彼ハ其船又ハ積荷ニ付テ被保險利  
 益ヲ有セサルモノトス

三、賭博保險ハ認テラレス賭博保險トハ被保險利益ナキ者ニ對シテ保險契約ヲ締結スルモノニシテ偶然ナル利益ノ希望ヲ保險スルカ如キハ即チ是ナリ

### 第二款 保險料

保險契約カ有償契約ナルコトハ蓋ニ之ヲ述ヘタリ而シテ保險料ハ即チ契約ノ報償トシテ保險者ノ受クル所ノ代價ナリ

斯ク法律上ヨリ一概ニ論スレハ保險料ハ保險者カ保險契約者ニ與フル所ノ利益ニ對スル報酬ナレトモ經濟上ヨリ保險料ノ性質ヲ分析シテ吟味スルトキハ一ノ報酬ト謂フ中ニモ自ラ異種ノ原素ヲ包含スルコトヲ知り得ヘシ

先ツ保險者カ保險契約者ニ對シテ與フル所ノ利益ハ如何ナル點ニ在リヤト尋スルニ第一被保險利益ヲ保護シ該利益カ外界ノ危險ノ爲メニ損傷セラレタルトキニ之ヲ補償スルニ在リ是レ所謂危險。擔。保。ノ實力ナリ。而シテ此擔保力ハ形式的ニハ勿論保險者ノ有スル所ノモノナレトモ實質上ヨリ論スレハ保險者ノ供スル所ノ力ニ非スシテ共同ノ保險者ト契約スル所ノ多數ノ保險契約者カ自然ニ形作レル一團體ノ供スル所ノ實力ナリ而シテ保險者ハ此團體ノ代理者若

クハ管理者又ハ周旋人トシテ擔保力ノ執行ヲ爲スモノニシテ此執行ノ力ハ即チ第二ノ利益ナリ此二種ノ利益ハ普通ノ保險契約ニ存在スル所ノモノニシテ普通ノ保險料ハ此二種ノ利益ニ對スル各個ノ報酬ノ結合シタルモノナリ然ルニ或種類ノ契約就中顯著ナルハ生命保險契約ニ於テハ未來ニ於ケル報酬ヲ契約ノ便宜上前納スル場合多シ而シテ是レ亦報酬ニハ相違ナキモ前述ノ擔保力ニ對スルモノトハ自ラ異ナラサルヘカラス即チ前ノ報酬ハ危險ノ經過ト共ニ保險者ノ利益ニ歸シ去ルモノナレトモ後ノ報酬ハ未タ保險者ノ手ニ歸スル能ハス恰モ保險契約者ヨリ保管ヲ託セラレタル如ク慎重ナル注意ヲ以テ貯藏シ置カサルヘカラス責任準備金ト稱スルモノハ即チ是ニシテ未來ノ危險ニ侵入セサル間ニ契約カ解除セラル、場合ニ於テハ保險契約者ニ返還セサルヘカラル部分ナリ故ニ保險料ハ三種ノ報酬ヨリ成立セルモノニシテ第一純然タル危險擔保ノ報酬第二擔保力執行ノ報酬第三條件附報酬是ナリ一ハ即チ純保險料二ハ即チ附加保險料三ハ即チ責任準備金ナリ

以上ハ保險料ノ經濟的性質ヲ解明シタルモノニシテ其原素ノ如何ニ拘ハラヌ

法律上ヨリ之ヲ論スレハ一ニ以テ保險契約ニ於ケル報酬トシテ保險者ノ權利ニ歸スルモノト看做シテ可ナリ但法律ヲ解釋スルニ就テ保險料ノ經濟的性質ヲ知ラサレハ隔靴搔痒ノ感無キ能ハサル場合多キカ故ニ爰ニ聊婆心ヲ試ミタルナリ例ヘハ商法第四百七條ニ於テ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得又第四百八條ニ於テ「保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生ゼサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス」ト規定セルニ對シ次ノ第四百九條ニ於テ「前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得」ト定メラレタルヲ見ヨ責任ノ始マラサル前トハ擔保力ノ發生セサル前ニシテ此場合ニハ擔保ノ利益ハ未タ寸毫モ保險契約者ニ對シテ供給セラレサレトモ保險者カ保險契約者ノ團體ヨリ委任ヲ受ケタル周旋ノ力ハ既ニ當該契約者ニ供シタルカ故ニ之ニ對スル報酬ヲ請求スルノ權ヲ付與セラレヘキヤ當然ナリ返還スヘキ保險料ノ半額トハ立法

者カ別段ノ標準ニ據ラスシテ計ヒテ以テ定メタル額ナレトモ暗ニ附加保險料ヲ考察シタルモノナリ又商法第四百三十一條第四百三十三條ニ於テ「被保險者ノ爲メニ積立テタル金額」ト稱セラル、ハ即チ予カ所謂條件附ノ報酬即チ責任準備金ノ謂ニシテ保險者カ補償ノ義務ヲ盡スコトヲ要セサル場合又ハ或原因ニ由リテ契約ノ解除セラレ、場合ニ保險契約者カ返還ヲ受クヘキ性質ノ金額ナリト知ルヘシ

保險料ハ契約ニ對スル報酬ナルカ故ニ契約ノ履行ヲ俟テ拂込マル、ヲ當然ト思惟セラレト雖モ通常保險契約ハ締結ヨリ履行ニ至ルマテニ長キ期間ヲ要スルト履行ノ後ニ授受スルトセハ保險契約者ノ不拂多カルヘキト危險發生ノ場合ニノミ拂込ミテ無事ニ危險ヲ經過シタル場合ニ拂込マサルノ虞アル等ノ事情ニ由リ契約締結ト同時ニ否寧ロ最初ノ保險料ノ拂込ヲ以テ契約成立ノ事ト定ムルヲ普通ノ習慣ナリトス我商法ニ於ケル諸種ノ規定モ此前拂ノ習慣ニ從テ起草セラレタリ然レトモ契約期間ノ比較的短キ場合若クハ當事者間ニ信用ノ深キ場合ノ如キニ在リテハ保險料ノ後拂亦頗ル多シ例ヘハ日歩火災保險ノ

如キ常得意ノ海上保險契約ノ如キニ於テ契約満了後又ハ每月末若クハ每年末ノ勘定ヲ以テ保險料ヲ授受スルコトアルカ如シ

保險料ハ契約セラレタル危險ノ包容ニ對スル分ヲ一時ニ拂込ムヲ普通トスト雖モ便宜上之ヲ分割シテ拂込ムハ隨意契約ノ範圍内ナリ但別段ノ契約無キトキハ危險ノ性質上保險ノ原理上及ヒ法理上契約シタル危險ニ對スル保險料ハ分割スヘカラサルモノニシテ例ヘハ一月一日ニ一ケ年間ノ火災保險契約ヲ締結シ三日ノ後ニ契約者カ契約ノ解除ヲ爲スト云フトモ一旦拂込ミタル該一ケ年分ニ對スル保險料ハ其幾部分タリトモ返還セラルヘキモノニ非ス隨テ又分割拂込ノ契約ニテ半ケ年ニ對スル分ノミカ拂込マレタル場合ニ在リテハ保險者ハ他ノ半ケ年分ヲモ請求スルコトヲ得ルノ理ナリ

此保險料ノ分割スヘカラサルハ第一危險ノ本質ヨリ來ルモノニシテ保險者ノ擔保シタル危險ハ一ケ年ノ初ニ起ルヤ將タ其最終日ニ起ルヤ固ヨリ不定ナリ保險者カ尙モ保險契約ヲ締結シテ或一定期間内ノ危險ヲ擔保シタル以上ハ其期間ニ踏込ムヤ否ヤ全責任ヲ荷ヒタルモノニシテ己ニ此全責任ニ對スル報酬

ヲ享受スルノ權利ヲ獲得セリ故ニ縱令三日ノ後一週間ノ後又ハ半年ノ後保險契約者カ被保ノ利益ヲ抛ツト雖モ遑テ保險者ノ負擔ヲ輕メ得サルナリ次ニ保險ノ原理ヨリスレハ一ケ年ノ危險ハ其程度ニ於テ始終同一ナラス例ヘハ火災ノ危險ノ如キハ一月ヨリ三四月ノ頃マテ非常ニ高度ナレトモ五六月ヨリ八九月ニ至ルマテハ極メテ低度ナリ而シテ十月ヨリ年末ニ至ルマテハ稍火災ノ頻繁ナラントスルノ候ナリ况ヤ時々刻々ニ於ケル精密ナル程度ニ至リテハ殆ト算定スヘカラス變化不測ナリ故ニ平均ヲ以テ定メラレタル一ケ年ノ危險度ハ之ヲ分割シテ考察計算スルノ途無ク己ニ經過シタル期間内ニ普通一ケ年間ノ危險ヲ擔保シタルヤモ計ルヘカラサルカ故ニ保險者ハ之ニ對シテ一ケ年分ノ保險料ヲ請求セサルヘカラサルナリ

危險ノ分割スヘカラサル結果トシテ生スル所ノ保險料ノ分割スヘカラサルコトハ前述ノ理由ヨリシテ法理上ノ原則トシテ普ク承認セラル、所タリ當ニ契約解除ノ場合ノミナラス危險カ消滅シ若クハ減少スル場合ニ於テモ此原則ヲ適用スヘク例ヘハ横濱ヨリ長崎ニ至ルノ貨物保險ヲ契約シタル場合ニ該貨物

カ神戸ニ到リテ荷揚セラレタル場合ノ如キハ神戸以西ノ危険忽然トシテ消滅シタリト雖モ契約者ハ保險料ノ返還ヲ請求スルヲ得ス又神戸ヨリ一層安全ナル船舶ニ搭載セラレテ危険減少スト雖モ保險料ノ減額ヲ請求スルヲ得サルカ如シ但當事者カ特別ノ危険ヲ斟酌シテ特ニ高價ナル保險料ヲ定メタル場合ニ於テ該特別危険カ消滅シタルトキハ保險契約ハ其以後ニ對スル保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ト我商法第四百條ニ定メタルハ初ヨリ危険カ分割レテ算定セラレタル特別ノ場合ヲ想像シタルモノニシテ例ハ生命保險ニ於テ戰爭ニ赴クカ爲メニ規定保險料ノ増加ヲ約シタル場合ニ無事凱旋ノ曉ニ其増加分ノ撤去ヲ將來ニ向テ請求スルコトヲ得ルカ如シ

保險契約者カ管ニ一旦拂込ミタル保險料ノ返還ヲ請求スルヲ得サルノミナラス分割拂込ノ場合ニハ未拂込ノ分ヲモ徵收セラル、コトハ理論上前述ノ理由ニ因リテ當然ナリト雖モ實際ニ於テハ實行不實行相半セリ例ハ生命保險ニ於テ毎月拂込ヲ約シ三ヶ月經過ノ後死亡セルカ如キ場合ニ保險者ハ拂渡スヘキ保險金中ヨリ九月分ノ保險料ヲ差引クノ便アルカ故ニ此原則ヲ行フコトヲ

得ヘシト雖モ契約解除ノ場合ニハ契約者ニ就テ殘餘ヲ請求スルノ煩雜ニシテ且酷ナルヨリ殆ト之カ實行ヲ見サルナリ其他ノ保險ニ於テモ皆然リ故ニ外國ニ於テハ二回以後ノ保險料就中火災保險ニ於テヲ約束手形ヲ以テ拂込マシムルコト、スルヲ聞ケリ是レ即チ上述ノ原則ヲ實行セントスルノ手段ニ外ナラサルナリ

契約期間ニ對スル保險料ノ不可分ナルコト此ノ如シ然ルニ保險契約ノ期間ニハ長短區々タリ就中生命保險ノ如キハ一年定期保險ヲ最短トシ長キハ數十年ニ亘ルアリ例ハ養老保險終身保險ノ如シ然レトモ此數十年カ即チ契約ノ保險期間ト解釋スヘカラス保險契約ハ特約ナケレハ一ケ年ヲ原則トスルモノニシテ數年ノ契約ハ此一ケ年ノ契約ヲ無條件ニ更新スルコトヲ豫約スルノ謂ニ外ナラス故ニ養老保險ノ解約者ニ對シ以後ノ保險料ヲモ悉皆請求シ得ルモノト解釋スヘカラサルナリ

保險料ヲ拂込ミテ契約ヲ繼續セシムルコトヲ契約ノ更新ト稱シ其保險料ヲ更新保險料ト謂フ而シテ保險契約ハ最長一ケ年ヲ原則トスルコトハ習慣上ヨリ



來ルト雖モ保險料算定ノ基礎タル統計カ總テ一ケ年ノ平均ニ據レルコトハ此原則ヲ確ムルト同時ニ保險料不可分ノ原則ヲ強ウスルモノト謂フヘシ  
 保險契約者カ保險期間内ニ於テ危險ノ消滅又ハ減少ヲ原因トシテ保險料ノ返還減額ヲ請求スルコト能ハサルハ勿論ナリト雖モ一定ノ期間ヲ經過シテ更新保險料ヲ拂込ムニ際シテハ危險減少ニ連レテ保險料ノ減額ヲ請求シ得ルコト亦言フ俟タサルナリ是レ次ノ期間ニ於ケル危險ハ自ラ前ノ期間ニ於ケル危險ト區別シテ考ヘラルヘキカ故ナリ

保險期間内ニ於ケル危險減少ハ前述ノ如ク認めラレサルヲ原則トスト雖モ之カ反對ナル危險増加ハ明カニ保險者ノ責任ヲ重カラシメ其負擔ヲ強カラシムルモノナルカ故ニ保險者ハ保險契約者ニ對シテ保險料ノ増額ヲ請求スルコトヲ得ルナリ而シテ契約者カ之ヲ承諾セサルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スヲ得ルコト無論ニシテ我商法第四百十一條ニモ此規定アリ而シテ該條及ヒ其他ニモ其解除ハ將來ニ向テノミ其効力ヲ生ス<sub>ト</sub>アルハ解除ノ原則ハ契約ヲ原形ニ復センムルニ在ルカ故ニ普通ノ解除トスレハ保險契約ヲ未締結ノ狀況ニ引戻

サ、ルヘカラス然ルニ保險契約ニ於テ一旦保險者カ供給シタル擔保力ハ之ヲ既往ニ遡テ取除グコトヲ得ヘカラスルカ故ニ將來ニ向テノミ解除ノ効力ヲ生セシメタルナリ語ヲ換ヘテ言ヘハ保險者ヲシテ既ニ領收シタル保險料ヲ返還スルニ及ハサラシムルナリ

火災保險等ニ於テ保險者ヨリ中途ニ契約ノ解除ヲ請求シタル場合ニハ殘餘ノ期間ニ對シテハ日割ヲ以テ保險料ヲ返還スルコト吾人ノ屢見聞スル所ナリ然レトモ是レ通常保險者カ隨意ニ契約ノ解除ヲ請求シタル場合ニ相方協議上定メタル所ノ變則ニシテ危險増加ニ付テノ解除ニ適用セラルヘキニ非スト知ルヘシ

更新保險料及ヒ分割拂ニ於ケル第二回以後ノ保險料ハ契約ニ於テ定メラレタル期日毎ニ拂込ムヘキモノニシテ期日ニ拂込マレサル場合ニハ契約ノ効力ヲ失フヲ當然トス何トナレハ保險料ハ保險契約ノ要素ニシテ保險者カ重大ナル責任ヲ荷フハ一ニ此報酬ヲ受タルカ爲メナリ然ルニ契約セラレタル期日ニ之カ拂込マレサル場合ハ保險者カ報酬ヲ失ヒタル場合ナリ交互ノ條件タル報酬

無クシテ登擔保力ノ存在スヘキ理アラシヤ舊商法ニ於テハ保險料カ一定ノ期間ニ拂込マレサル場合ニハ保險者ハ契約ニ羈束セラレ、コト無シト規定シ又生命保險料ノ不拂ハ保險者ニ於テ之ヲ契約解除ノ豫告ト看做スコトヲ得ト規定セリト雖モ新商法ニハ是等ノ規定ナシ是レ蓋シ當然ノ道理ナレハナルヘシ期日ニ於ケル保險料ノ不拂カ契約無効ノ原因タルハ理論上己ムヲ得サル所ナレトモ實際ニ於テ随分殘酷ナル結果ヲ惹起スナリ何トナレハ契約者カ契約ヲ解除スルノ意ニ非ス又延滞セシメントノ故意ニ非スシテ眞ノ過失無意者クハ無理ナラサル事情等ヨリ期日ヲ誤ル場合無キニ非ス此場合ニ忽チ契約ヲ無効トスルハ契約者ニ對シテ甚嚴酷ナル處置ニシテ折角彼カ繼續シ來リ尙ホ繼續セント欲スル耐忍ト希望ヲ一朝水泡ニ歸セシムルノ所爲ナルカ故ニ保險者ハ通常彼ニ與フルニ猶豫期間ヲ以テシ正當期日ヲ經過シタル後ト雖モ該期間内ナラハ契約ヲ有効ナラシムルノ習慣西洋各國ハ勿論我邦ノ保險社會ニモ普ク實行セラレ居レリ

猶豫期間ハ之ヲ二種ニ別ツコトヲ得一ハ單純ナル保險料拂込ニ關スル猶豫ノ

期間ニシテ其間ニ拂込マレタル保險料ハ事情ノ如何ヲ問ハス正當期日ニ拂込マレタルモノト看做サル、ナリ此期間ハ恩惠期間榮譽期間保險料拂込猶豫期間等ノ名アリ即チ絶對的ノ猶豫期間ニシテ其間ニ事故ノ發生セタル後ト雖モ保險料ノ拂込ヲ承認スルモノトス其期間ノ長短ハ保險者ノ隨意ニ定ムル所ナレトモ火災保險ニ於テハ通常十五日ヲ與ヘ生命保險ニ於テハ三十日ヲ許スコト多シ其他ノ保險ニ於テモ亦之ニ類似セル設定アリ而シテ契約期間ノ餘リ短キモノニハ與ヘスシテ一ケ年以上ニ亘ル契約ニ就テ存在スルヲ通例トス何トナレハ此絶對的ノ猶豫期間ナルモノハ取りモ直サス契約期間ノ延長タル結果ヲ有スルモノニシテ保險者カ夫丈餘計ナル危險ノ負擔ヲ爲スモノナレハ計算上甚短期ナル契約ニ付與シ難キカ故ナリ

第二種ノ猶豫期間ハ制限セラレタル猶豫期間ニシテ通常絶對的猶豫期間ノ上ニ更ニ付與セラレ、所ノモノナリ此期間ハ其間ニ一旦無効ト爲リタル契約ヲ回復シテ將來ニ進行セシムルコトヲ得ル所ノモノニシテ危險カ未ダ發生セタル場合ニ於テノミ契約ノ繼續ヲ許スモノナリ此期間ハ回復期間ト稱シテ其恩

惠ハ單ニ解約ノ損失ヲ契約者ニ助ケル限ノモノナルカ故ニ保險者ハ比較的廣量ニ之ヲ契約者ニ付與シ二ヶ月三ヶ月若クハ半年ヲモ之ヲ許セリ

例ヘハ生命保險ニ於テ拂込期日後三十日以内ナラハ被保險者カ罹病セルト既ニ死亡セルトヲ問ハス保險料ヲ受領シテ契約ノ有効ヲ保證スルハ第一種ノ猶豫期間ヲ與ヘタルモノニシテ該三十日ヲ經過シテ仍ホ拂込マレサルモ尙ホ其上六十日以内ナラハ被保險者カ健全ニ生存セル場合ニ限り保險料ヲ受領シテ契約ヲ進行セシムルハ第二種ノ猶豫期間ヲ付與シタルモノナリ

保險料ノ保險契約ニ必要ナル原素タルコト疑ニ述ヘタル所ニ據リテ明白ナリ故ニ保險契約ニ於テ保險料ノ確定額カ當事者間ニ合意セラレス隨テ保險證券ニ掲載セラレザリシ場合ニハ契約無効タルコト無論ナリト雖モ之カ例外トモ謂フヘキ場合兩三アリ

(一)保險料カ默定セラレタリト看做サル、場合 例ヘハ一ノ保險契約ヲ締結シタル契約者カ第二ノ契約ヲ締結シ而シテ其條件ハ其他ノ點ニ於テ總テ第一ノ契約ト同一ナリシモ唯保險料額ノ記載ヲ脱漏セシメタリキ而シテ事故ノ

ノ如キモ十七世紀ノ初年ヨリ其前半紀ノ終リニ至ルマテ無記名證券ノ無効ナルコトヲ宣言シ裏書モ亦無効ナル旨ヲ認メタリ裁判所ノ特例ハ此ノ如クナリシニモ拘ハラス商人ニ於テハ之ニ服セシテ裏書讓渡ヲ實行シ竟ニ裏書ハ法律上有効ナリト認メラルルニ至レリ尋テ一千六百七十三年ノ佛國商法ニ於テハ巴厘府商業會議所ノ意見ヲ容レ裏書制度ヲ認メタリ此時代ニ在リテ法律上裏書制度ヲ認メタルハ惟リ佛國ノミナラス一千六百五十四年ノ「アムステルダム」法律及ヒ一千六百八十二年ノ「ライプチヒ」手形法ノ如キモ亦之ニ關スル規定ヲ設ケタリ右ニ述ヘタル如ク裏書制度ハ唯手形ノ流通ヲ容易ナラシメタルノミナラス其信用ヲ鞏固ナラシメタルモノナルヲ以テ手形法ノ沿革上最も重要ナルモノト謂ハサルヲ得ス然リ而シテ手形ノ効用ヲシテ完全ナラシムル爲メニハ尙ホ他ニ必要ナル事項アリ即チ左ノ如キ

第一爲替手形支拂ノ引受ハ手形ノ文面上ニ之ヲ記載スルコト

第二手形代金即チ其對價ハ手形債務ノ成立ニ關係ナキモノトスルコト

第三手形ノ資金ハ手形支拂ノ引受ノ原因タラサルコト

此三事項カ具備スルニ至リ裏書ハ十分ノ効用ヲ有スルコトヲ得ルモノトス左ニ其要概ヲ證明セシニ(一)若シ手形支拂ノ引受カ單ニ口頭ニ依リテノミ行ハルハトキハ手形債權者ハ之ヲ證明スルコト極メテ困難ナルカ故ニ裏書ハ十分ノ効力ヲ有セサルヤ知ルヘキナリ何トナレハ口頭ノ引受ハ對話者間ニノミ効力ヲ有シ第三者ノ爲メニハ何等ノ効力ヲ生スヘカラサレハナリ之ニ反シテ支拂ノ引受ハ必ス手形面ニ記載スヘキモノナリトスルトキハ各手形所持人ハ引受人ニ對シ直接ニ權利ノ證明ヲ爲シ之ヲ行フ便宜ヲ有スルカ故ニ手形ノ信用ヲ増シ流通ヲ容易ナラシムルニ至ルヘシ(二)次ニ手形ノ代金トモ謂フヘキモノ即チ手形ヲ取得スルニ付キ爲スヘキ反對給付ノ履行ヲ以テ手形ノ要件ナリトセハ裏書讓受人ハ其權利ヲ行フニ當リ豫想セサル抗辯ヲ受クルノ恐レアルカ故ニ手形ノ効用十分ナルコトヲ得サルヤ明カナリ(三)之ト同一ノ理由ニ因リ若シ手形資金ノ交付ヲ以テ手形成立ノ要件ナリトセハ縱令裏書ニ由リテ讓受タルモ手形所持人ハ滿期日ニ於テ支拂人ヨリ資金ノ交付ヲ受ケス又ハ之ニ相當スルモノナキコトヲ理由トシテ支拂ヲ拒マルハノ恐レナキコトヲ得サルナリ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ手形ノ裏書ヲシテ完全ナル効力ヲ得セシメント欲セハ右三事項ト相待テ行ハル、コトヲ要スルヤ理會シ易シ是ヲ以テ第十七世紀ノ終リニ行ハレタル手形法ハ殆ト皆手形ノ引受ハ手形面ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ストセリ然ルニ手形資金ノ關係及ヒ手形代金ノ關係カ手形自體ヨリ分離セラレタルハ蓋シ第三期以後ノコトニ屬ス

第二期即チ主トシテ佛國主義ノ行ハレタル時代ニ於テハ手形資金及ヒ手形代金ハ手形ノ要件ナリシモ惟リ「ライプチーヒ」手形法ハ手形資金ノ關係ヲ手形ヨリ分離シタリ

第三期ニ至ルニ及ヒ所謂獨逸主義行ハレシ手形ハ純然タル信用機關ト爲リ手形使用ノ範圍大ニ擴張セラレ唯商人間ノミナラス一般行ハル、ニ至レリ

十九世紀ノ初メ第二期ノ終リニ於テハ佛國商法ノ主義ト共ニ有名ナル「ボチエ」氏ノ學說大ニ行ハレ佛法主義ハ「ライプチーヒ」手形法ヲ除ク外殆ト歐洲大陸ヲ風靡セシモノ、如シ試ミニ此主義ノ特別ナル點ヲ摘示スレハ左ノ如シ

第一佛國法ニ於テハ爲替手形ハ場所ヲ異ニスル者ノ間ニ於テ發スルコトヲ要

ス蓋シ第一期ニ於ケル兩替手形ノ思想ノ殘存シタルモノニシテ現今新主義ノ手形法ニ於テハ全ク之ヲ排除シタリ

第二佛國法ニ於テハ手形對價ノ關係ヲ手形ニ記載スルコトヲ必要トシ資金ノ

關係ヲ以テ手形關係ト分離セザルナリ勿論實際上ニ於テハ其取扱殆ト獨逸

主義ト異ナルコトナシト雖モ法理上區別ノ大ナルモノアリ

第三佛國法ニ於テハ略式ノ裏書即チ白地裏書ヲ禁止セリ

以上ハ佛國主義ノ特殊ナル所ナリトス然ルニ一千八百三十八年ニ至リテ手形

法制沿革上一大激變ヲ生スルニ至レリ蓋シ此刷新ニ與リテカアリシハ索遜人

「アイネルト」氏ニシテ氏ハ多年ノ實業經驗ニ依リ手形法理ヲ研究シ一千八百三

十九年其著手形法論ニ於テ新ナル說ヲ世ニ公ニシタリ氏ノ主張スル說ハ要

スルニ手形ハ商人カ發行スル紙幣ナリト云フニ在リ其說非難ヲ受タヘキ點極

テ多シト雖モ手形ニ原因ヲ必要ナリトシタル舊說ヲ排斥シタル効力ノ著シキ

コトハ掩フヘカラサルモノトス一千八百四十七年ニ至リ氏ハ索遜手形法ヲ起

草シ之ヲ實行セントシタリ一千八百四十八年ノ發布ニ係ル獨逸現行手形法ノ

如キモ氏ノ思想ニ依ルモノ蓋シ尠シトセス

以上ハ手形法制沿革ノ大要ナリ次ニ我國手形法ノ沿革ヲ述フル順序ナリト雖

モ如何セン我國手形法ノ沿革ハ此講義ニ於テハ殆ト之ヲ述フルノ價值ヲ見サ

ルコトヲ何トナレハ我國ニ於テハ古來大坂ニ於テ兩替手形カ盛行ハレタリ

ト雖モ其形跡ニ付キ十分憑據トスヘキ記錄ニ乏キノミナラス我國舊手形法ハ

全ク佛國主義ニ據リ現行法ハ佛獨兩主義ノ折衷ニ成リタルモノニシテ改正商

法手形法ハ獨逸主義ニ據リタルモノナルカ故ニ既ニ述タル歐洲ノ手形沿革ハ

採テ以テ我手形法ノ沿革ト爲スコトヲ得ヘケレハナリ

現世界ニ行ハル、手形法ノ主義ニ二アリ其一ハ第二期ニ於ケル佛法主義ニシ

テ歐洲ニ於テハ佛國ヲ始メトシテ蘭、西葡、希土、リユク、タンブルグ等ノ諸國歐洲

以外ニ於テハ埃及、巴西共和國「アルジャンチーヌ」墨哥倫比等ノ諸國之ヲ採用セ

リ其二ハ獨逸法系ニ屬シ最近ノ立法例ハ概シテ之ニ據ル故ニ新ニ手形法ヲ制定

スル國ニ於テハ多ク之ヲ採用セリ但佛法ニ比スレハ其實施ノ日向ホ淺キカ故

ニ之ニ據ルモノ佛法主義ノ法律ニ比スレハ少數ニシテ埃阿國手形法瑞西債務

法其他「スカンチナー」諸國ノ法律及ヒ我改正商法等其最ナルモノトス此ノ如ク二派儼然トシテ相對立シ行ハルト雖モ佛法主義ハ漸々退却シテ獨逸主義ニ讓ルノ傾向アルヲ免レサルナリ例ヘハ全然佛法ヲ採用シタル白耳義國ノ如キモ一千八百七十二年ノ改正ニ於テハ獨逸主義ヲ採用セル如キ及ヒ伊國商法ハ純然タル佛國商法ナリシモ一千八百八十一年ノ改正商法手形ノ部分ニ於テハ獨逸主義ヲ加味シ其主要ナル點ハ全ク獨逸法ノ主義ト異ルコトナキカ如シ又一千八百八十二年ノ英國手形法モ亦獨逸法ト其主義ヲ同クシ北米加奈太諸州及ヒ印度ニ於テモ行ハル是ニ由テ觀レハ新立法例ハ獨逸手形法主義ニ傾キツ、アリト謂フモ蓋シ過言ニ非ラサルヘシ

手形債務ニ關トル學說モ亦種々ノ變遷ヲ經テ今日ニ至レルモノナリ今左ニ之ヲ略說スヘシ

第十七世紀及ヒ第十八世紀ノ末ニ至ルマテハ學者ハ主トシテ手形振出人ト手形受取人間ノ關係ヨリ手形債務ノ性質ヲ論シ其論據ハ一樣ナラザリシト雖モ手形債務ハ契約ニ因リ成立スト云フニ至リテハ異論ナカリキ蓋シ此時代ニ於

テハ羅馬法盛ニ行ハレ當時ノ學者ハ手形債務ヲ論スルニ付テモ亦其原理ニ據リテ之ヲ說明セント試ミタリ然レトモ手形債務ハ如何ナル契約ニ原因スルモノナルヤノ問題ニ至リテハ議論一定セス或ハ之ヲ以テ一ノ交換契約ナリト論シテ曰ク「手形振出人ハ手形受取人ニ對シ其受取人カ振出人ニ交付スル金銭ニ非サル金銭ヲ他ノ場所ニ於テ與フルコトヲ約シ其契約履行ノ爲メニ交付スルモノハ即チ手形ナリ故ニ手形債務ハ一種ノ交換契約ヨリ生スルモノナリ」ト蓋シ當時ニ於テハ或ハ適當ナリシ說ナラン何トナレハ前ニモ述ヘタル如ク十七八世紀ニ於テハ手形ハ兩替ノ爲メニ行ハレタルモノナレハナリ然レトモ手形ハ相場ニ因リテ受取人カ給付スル金額ト其受取額トニ相違ヲ生スルカ故ニ交換說ニ據ルモ適切ニ說明スルコト能ハザリキ是ニ於テカ手形債務ハ一ノ買賣契約ニ基クモノナリト說明スル者アリ此說ハ手形受取人カ甲地ニ於テ振出人ニ交付スル金額ハ即チ代價ニレテ其乙地ニ於テ受取ルヘキ金額ハ賣買ノ目的ナリ手形ハ其證明ノ方法トシテ之ヲ交付スルモノナリト云フニ在リ蓋シ亦當時ニ於テハ必スシモ不適當ナル說明ニ非ザリシナルヘシ然レトモ之ニ據ルモ尙ホ允

當ナラサル弱點ヲ存シタルヨリ學者或ハ手形債務ヲ以テ買賣ニ類スル一種ノ無名契約ナリト論シ其契約ハ合意ニ因リテ直チニ成立スルモノナリト曰ヘリ此說ニ據レハ手形行爲ハ當事者ノ一方ナル振出人カ相手方タル受取人ヨリ一定ノ金銭又ハ相當對價ヲ受取リ手形ノ受取人又ハ其指定シタル者ニ對シテ當事者間ニ豫定シタル時及ヒ場所ニ於テ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ約スル契約ナリト云フニ在リ故ニ所謂手形上ノ債務ハ手形ノ振出人カ支拂ハシムヘキ金額支拂ノ時期支拂ノ場所及ヒ手形振出人カ手形受取人ヨリ受取ルヘキ金額ニ付キ合意アレハ直チニ成立シ他ニ又手續ヲ爲スコトヲ要セス手形其物ハ單ニ成立シタル合意ヲ實行スル方法即チ債權ノ證明書タルニ過キス故ニ振出人カ未タ手形ノ對價ヲ受取ラサルトキハ手形上ノ債務ヲ負フコトナシト謂ハサルヘカラス別言スレハ手形振出人カ其對價ナル金額又ハ之ニ相當スル對價ヲ受取ラサル場合ニ於テハ振出人ハ手形債務ヲ負擔セストノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ手形ノ振出ニ對スル對價ノ辨濟ナシトノ事實ハ手形債務ノ履行ヲ拒絶スル抗辯ノ理由トシテ主張スルコトヲ得ヘキモノナリ例ヘハ爲替手

法ニ非ルヲ以テ純理ニ拘ハラヌ實際ノ必要ニ基キ本人ノ爲メニ爲スコトヲ表示セスシテ爲シタル行爲ハ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做シ代理人ノミヲ拘束スルコト、セリ

商業上ニ於テハ取引ノ迅速取引ノ安全ヲ保護スルコト篤キヲ要ス故ヲ以テ近世各國ニ於テ商法ヲ編纂スルニ當リテハ理論ヲ骨子トシ實際ノ便益ヲ參酌シテ之カ規定ヲ設ク我國商法ノ編纂ニ於テモ亦此主義ヲ採用シ民法ニ於テハ理論ヲ基礎トシ公平ヲ規矩トシ稀ニ實益ヲ參酌セリト雖モ商法ニ於テハ寧ロ實益ヲ以テ主トシ論理ヲ以テ從トセリ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ法律行爲ヲ行ヒタルトキハ民法ニ於テハ公平ノ觀念ニ基キ單ニ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スノミ然レトモ商業上ノ取引ハ便利且迅速ナラシムルコトヲ要スルヲ以テ一ノ商行爲ヲ爲スニ當テ常ニ其本人ノ爲メニスルコトヲ表示スルニ非レハ其行爲ハ本人ニ對シ何等ノ効力ヲモ生セスト規定スルトキハ不便極マリナク加之商業上ノ取引ニ於テハ屬々匿

名ヲ以テ取引ヲ爲スノ必要アルヲ以テ商法ハ第二百六十六條ヲ以テ  
 民法第九十九條及ヒ第百條ノ例外ヲ設ケタリ

以上述フル所ハ單ニ本人ト代理人トノ關係ニ過キス更ニ代理人ト相手方トノ關  
 係ニ付キ特ニ注意ヲ要スヘキモノアリ前述ノ如ク代理人カ本人ノ爲メニスル  
 コトヲ表示セサル時ニ於テモ其法律行爲ハ本人ニ對シ直接ニ効力ヲ生スルカ  
 故ニ本人ハ之ニ因テ權利ヲ得義務ヲ負擔スト雖モ代理人ハ何等ノ義務ヲ負擔  
 セサルモノナリ相手方ハ其取引ヲ爲スニ當リテハ代理人自身ト取引ヲ爲スノ  
 意思ヲ有シ代理人自身ヲ信任シ若クハ其資產ヲ信據スルヲ常トス然ルニ其行  
 爲ハ代理權ノ作用トシテ直接ニ本人ニ對シテノミ効力ヲ生シ代理人ハ相手方  
 ニ對シテ何等ノ責任ヲ負擔セストセハ相手方ノ不利益ハ特ニ甚シク相手方ハ  
 心ヲ安ンシテ他人ト取引スルコトヲ得サルニ至ラン是レ商法上基礎ノ觀念タ  
 ル取引ノ安全ヲ阻害スルモノナルヲ以テ相手方保護ノ主旨ニ基キ商法第二百  
 六十六條ハ但書ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサル相手方ニ對シ代理人  
 ニ對シテ履行ヲ請求スルノ權利ヲ與ヘタリ

(第三例外ノ第二ハ委任ニ依ル代理權ノ範圍ニ關スルモノナリ民法第六百四十  
 四條ノ規定ヲ觀ルニ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ  
 委任事務ヲ處理スヘキモノナリ委任ノ本旨トハ何ソヤ委任者カ明示若クハ默  
 示ニ委任シタル行爲ノ範圍是ナリ受任者ハ明示又ハ默示ニ因リ指定セラレタ  
 ル行爲ノ外ハ之ヲ行フノ權限ヲ有セス然レトモ受任者ノ權限ヲ限定スルハ商  
 業上不便少ナカラサルヲ以テ商法ニ於テハ特ニ反對ノ意思表示ナキ限りハ可  
 成代理權ノ範圍ヲ擴張セシムルコトヲ必要トス故ニ商法第二百六十七條ニ於  
 テハ民法ノ除外例ヲ設ケテ明示又ハ默示ノ方法ニ因リ指定シタル委任ノ本旨  
 ニ反セサル範圍内ニ於テ爲レタル代理人ノ行爲ハ代理行爲トシテ本人ニ對シ  
 効力アルコトヲ規定セリ

(第三例外ノ第三ハ代理權ノ消滅ニ關スルモノナリ民法第百一十一條ニ依レハ代  
 理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅スルモノタリ委任ニ因ル代理ハ當事者間ニ於  
 ケル一身上ノ信用ニ基クモノナルカ故ニ羅馬法以來諸國ノ立法ハ多ク本人ノ  
 死亡ニ因リテ代理權ハ消滅スルモノトセリ然レトモ社會ノ發達ニ伴ヒ人事ノ



關係複雜ト爲ルニ從ヒ此ノ如キ制度ハ不便極ナキヲ以テ近來ニ於テハ本人ノ死亡ヲ以テ代理權消滅ノ一原因ト認メタルノ傾向ヲ生セリ特ニ商事ニ於テ委任者ノ死亡ヲ以テ代理權ノ消滅ノ原因ト爲ストキハ當事者ニ尠ナカラザル不便ヲ來スノミナラス商業ノ迅速ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ我商法ハ從來ノ沿革ニ拘ハラヌ獨逸ノ例ニ倣ヒ商法第二百六十八條ニ於テ民法ノ例外ヲ掲ケ委任者ノ死亡ハ代理權消滅ノ原因ニ非ルコトヲ明カニセリ

### 第六節 契約

本節ニ於テ述ヘントスル所ハ商法第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ニシテ民法第三編第二章ノ例外規定ナリ契約ニ關スル本法ノ規定ニシテ民法ノ規定ト異ル所ハ唯僅ニ左ノ三ノ場合アルノミ

(第一) 契約ノ申込ノ効力ニ關スル規定

(第二) 承諾ノ推定ニ關スル規定

(第三) 物品ノ保管ニ關スル規定

(第一) 契約申込ノ効力ニ關スル規定

契約申込ノ効力ニ就テハ民法第五百二十一條以下ノ規定スル所ナリ民法第五百二十一條及ヒ第五百二十七條ノ規定ニ依レハ申込ニ二種アリテ各其効力ヲ異ニセリ

(甲) 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込

承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ其期間内ハ之ヲ取消スコトヲ得スト雖モ若シ承諾ノ通知ナクシテ其期間ヲ經過シタルトキハ申込ハ其効力ヲ失フモノトス

(乙) 承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル契約ノ申込

承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル契約ノ申込ハ申込者ノ取消又ハ相手方ノ拒絶アルニ非スシハ單ニ一定ノ期間ノ經過ニ因リ其効力ヲ失フモノニ非ス加之對話者間ニ於テハ申込者ハ相手方カ承諾スル以前ハ何時ニテモ其申込ヲ取消スコトヲ得ルト雖モ隔地者間ニ於テハ申込者ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間内ハ之ヲ取消スコトヲ得サルモノトス

商法第二百六十九條及ヒ第二百七十條ノ規定ハ第二ノ場合即チ承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル契約ノ申込ニ關スル民法ノ規定ノ例外ヲ設ケタルモノニ

シテ承諾ノ期間ヲ定メテ契約ノ申込ヲ爲シタル場合若クハ商法ノ規定ト異ナル慣習アリテ當事者カ之ニ依ル意志ヲ有スル場合ニ於テハ其適用ナキコトヲ忘ルヘカラス

抑モ商業上ノ契約ニ於テハ其目的ハ主トシテ營利ニ在ルヲ以テ取引ヲシテ迅速且確實ナラシムルコトヲ要スルモノタリ承諾ノ期間ヲ定メスシテ申込ヲ爲シタル場合ニ於テ全然民法ノ規定ヲ適用スルコト、セシカ取引ノ敏活ヲ妨害スルノ恐アリ故ニ民法ノ例外ヲ設ク

第一、對話者間ニ於ケル申込ニ就テハ相手方カ直チニ承諾ヲ爲サ、ルトキハ當然其効力ヲ失フモノトシ(商法第二六九條)

第二、隔地者間ニ於ケル申込ニ就テハ相手方カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ其効力ヲ失フモノトセリ(商法第二七〇條)

對話者間ニ於ケル申込ニ關スル規定ニ就テハ別ニ説明ヲ要セズト雖モ隔地者間ニ於ケル申込ニ關シ一言ヲ要スヘキコトアリ民法ノ規定ニ依レハ承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル隔地者ニ對スル申込ハ申込者カ承諾ヲ受クルニ相當

ナル期間ヲ經過シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト雖モ申込者カ之ヲ取消サル限リハ申込トシテ猶ホ有効ニ成立ス加之民法第五百二十六條ノ規定ニ依レハ申込者ノ發シタル取消ノ通知カ其相手方ニ到達スル以前ニ於テ相手方カ承諾ノ通知ヲ發シタルトキハ契約ハ完全ニ成立シ取消ノ通知ハ何等ノ効力ヲ生スルコトナレ此ノ如ク申込ハ之ヲ取消サ、ル間ハ猶ホ効力ヲ有シ之カ効力ヲ失ハシムルニハ取消ノ手續ヲ要ストセハ商業上ノ不便尠ナカラサルヲ以テ商法ニ於テ特ニ之カ例外ヲ設ケタリ

(第二) 承諾ノ推定ニ關スル規定

抑モ契約ハ二人以上ノ間ニ於ケル意思表示ノ合致ナリ申込ニ對スル承諾ナル意思表示アリタル時ニ於テ完全ニ成立スルヲ原則トシ承諾ナクシテ契約ハ成立スルモノニ非サルナリ民法ノ規定ニ依レハ縱令申込者カ其申込ニ相手方カ拒絕ノ意思ヲ表示セザレハ之ヲ承諾セタルモノトスヘキコトヲ附記シタリト雖モ申込ヲ受タル者カ其申込ニ對スル諾否ヲ通知セザル場合ニ於テ單ニ通知ナキノ故ヲ以テ承諾ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得ス是レ民法ニ於テ別ニ

明文ナシト雖モ法理上明瞭ナル事ナリ契約ハ意思表示ノ合致ナルヲ以テ承諾ナル意思表示ナキ場合ニ於テハ特ニ法律ノ推定アルニ非スハ契約ハ成立スルモノニ非ス承諾ノ表示ナクシテ契約ノ成立スヘキ場合ハ唯民法第五百二十六條第三項ノ場合アルノミ

以上ハ民法上ノ原則ナリ然レトモ商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ民法ノ規定ヲ適用スルコト、セシカ取引ノ慣習上又ハ申込者ノ意思表示ニ因リテ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アルニ非スハ契約ハ成立セサルヲ以テ其不便實ニ尠ナカラス是ヲ以テ商法ニ於テハ民法ノ除外例ヲ設ケ商人ハ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ運滞ナク諾否ノ通知ヲ發スヘキノ義務アルモノトシ若シ義務ヲ怠リタルトキハ制裁トシテ申込ヲ承諾シタルモノト看做スコト、セリ(商法第二七一條故ニ商法第二百七十一條ニ依リ承諾ノ推定ヲ受クヘキ場合ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、申込者ハ平常取引ヲ爲ス者タルコト

二、商人カ營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込アリタルコト

三、申込ニ對シ運滞ナク諾否ノ通知ヲ發セザリシコト

抑モ商法ノ規定タルヤ之ヲ純理上ヨリ論ズルトキハ其當ヲ得タルモノニ非ス契約ハ當事者ノ意思ノ合致ナリ意思ノ合致ナクシテハ契約ナシ商法第二百七十一條ハ申込ヲ受ケタル者ノ意思ニ反シテ契約ヲ成立セシムルモノニシテ理論上契約ト稱スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ實際ニ徵スルニ商法上ノ取引ニ於テ商人カ平常ノ取引先ヨリ其營業ニ關シ契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ商人ハ必ス申込ニ對シテ諾否ヲ回答スヘキ義務アルモノトシ若シ此等ノ義務ヲ怠リタルトキハ損害賠償ニ代ヘ契約ハ完全ニ成立シタルモノト看做スハ不當ナラサルノミナラス毫モ弊害ヲ生スルコトナク且取引先ニ對スル商人ノ信用ヲシテ確固ナラシメ取引ヲシテ迅速ナラレムル等種々ノ利益ノ伴フアルヲ以テ理論ノ如何ニ拘ハラズ實際ノ便利ヲ計リ此ノ如キ推定ヲ設ケタルナリ

(第三) 物品ノ保管ニ關スル規定

近來商業發達シ取引ノ頻繁ト爲ルニ從ヒ商業上ノ機敏ヲ尊ヒ商業取引ハ一ニ信用ヲ基礎トシ之ヲ重スルニ至レリ今日ノ實際ニ於テ商人ハ商取引ヲシテ迅速ナラシメンカ爲メニ契約ノ申込ト同時ニ相手方ヲ信任シテ商品ヲ送付スルコト多シ此場合ニ於テ相手方若シ其申込ヲ拒絕シタリトセンカ民法ノ規定ニ依レハ相手方ハ其商品ヲ留置スルノ權利ヲ有セス又其物品ヲ保護シ若クハ送還スルノ義務ヲ負擔スルコトナシ果シテ此ノ如クンハ商業ノ迅速及ヒ商業上ニ於ケル信用關係ノ發達ハ得テ望ムヘカラス加之物品ヲシテ無益ニ荒廢セシムルハ公益上有害ニシテ且今日ノ實際ニ於テモ其商品ヲ保管セシムルノ慣例多キヲ以テ商法ニ於テハ民法ノ規定ニ拘ハラズ商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケ且此申込ト共ニ物品ヲ受取リタルトキハ縱令其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ其物品ヲ保護スヘキ旨ヲ規定セリ(商法第二七二條)

物品保管ノ義務ニ相牽連シテ生スヘキ問題アリ物品保管ノ費用ハ何人カ之ヲ負擔スヘキヤ契約ノ申込者之ヲ負擔スヘキカ或ハ其相手方ニ於テ負擔スヘキカノ問題はナリ元來物品ヲ受取リタル者ニ對シ其物品ヲ保管スヘキ義務ヲ負

擔セシメタルハ商業ノ迅速及ヒ信用ヲ尊フノ理由ニ基クモノナリト雖モ物品ヲ受取リタル者ヲシテ保管ノ費用ヲ負擔セシムヘキ理由ナキノミナラス物品ヲ受取リタル者ヲシテ其費用ヲ負擔セシムルコト、セハ弊害ヲ生スルノ虞アリ且物品ノ所有者ハ其所有ニ係ル物品ノ費用ヲ負擔スヘキハ至當ノ事ニシテ物品ヲ受取リタル者ハ自己ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルノ必要ナク申込者ノ費用ヲ以テ保管スヘキモノトス是レ商法第二百七十二條ニ申込者ノ費用ヲ以テ云々ノ規定アル所以ナリ

以上述ヘタル物品保管ノ義務ニ關スル原則ニ二箇ノ例外アリ是レ商法第二百七十二條但書ノ規定スル所ナリ申込ト同時ニ物品ノ送付ヲ受ケタル者ハ其物品ヲ保管スヘキ義務アリト雖モ保管ノ義務ヲシテ絕對的ナラシムルトキハ時トシテ保管人ニ損失ヲ來スノ虞アルヲ以テ商法ハ二箇ノ例外ヲ認メタリ

- 第一、物品ノ價額カ費用ヲ償フニ足ラザルトキ
  - 第二、商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキ
- 第一ノ例外ノ場合ニ於テ物品ノ價額ニ比シ保管ニ要スル費用夥多ナルニ由リ

其物品ノ保管ハ一方ニ於テ所有者ニ利益ナキノミナラス他方ニ於テ徒ニ保管者ヲシテ義務ヲ負擔セシムルモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ物品ヲ受取りタル者ヲシテ保管ノ義務ヲ免レシムルコト、セリ

第二ノ例外ニ付テハ別ニ説明ヲ要セス物品ヲ受取りタル者ヲシテ損害ヲ受クヘキ時ト雖モ猶ホ其物品ヲ保護スヘシトスルトキハ所有者ニ取リテハ極メテ利益ナリト雖モ相手方ニ對シテハ苛酷ニ失シ當事者ノ一方ヲ保護スルコト厚キノ嫌アルヲ以テ原則ノ例外ヲ設ケ保管ノ義務ヲ負ハサルコト、セリ

第七節 多數當事者ノ債權

本節ニ於テ論セント欲スルモノハ連帶債務及保證債務ニ關スル民法ノ例外ナリ今先ツ連帶債務ニ關スル例外ヲ述ヘントス

民法第四百二十七條ノ規定ニ依レハ數人ノ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ債務ヲ負擔スヘキモノニシテ各債務者カ連帶シテ債務ヲ負擔スヘキ場合ハ左ノ二箇ノ場合アルノミ即チ

- 第一、法律カ連帶シテ債務ヲ負擔スルコトヲ命スルトキ例ハ民法第七百十

九條ノ如キ當事者ノ意思ニ拘ハラス法律カ連帶シテ其責ニ任スヘキコトヲ定メタルトキ

第二、當事者カ連帶シテ債務ヲ負擔セントスル意思ヲ表示シタルトキ是レ民法ノ規定ニシテ民法ハ連帶ヲ推定セサルヲ以テ原則トセリ近來社會ノ進歩ニ伴ヒ多數ノ債務者アル場合ニ於テ民法ノ規定トシテモ猶ホ連帶ヲ推定スルノ當ヲ得タルモノナルコトヲ主張スル者多シ殊ニ商法ノ如キ商業ノ發達ヲ保護スヘキ法律ノ規定トシテ連帶ヲ推定スルハ債務ノ履行ヲ鞏固ニシ取引トノ信用ヲ増シ商業ノ安全ヲ保護スル所以ナルヲ以テ民法ニ於テハ連帶ヲ推定セサルニ拘ハラス商法ニ於テハ連帶ヲ推定スルコト、セリ而シテ商法ニ於テ連帶ヲ推定スヘキ場合ハ左ノ如シ(商法第二七三條第一項)

- 第一、多數債務者全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リ債務ヲ負擔シタルトキ

第二、多數債務者中ノ一人ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リ債務ヲ負擔シタルトキ

商行爲

以上ハ連帶債務ノ推定ニ關スル規定ナリ以下保證債務ニ關シ連帶ヲ推定スヘキ場合ヲ説明セントス通常ノ保證債務ニ於テハ一般ノ債務ニ於テ連帶ヲ推定セザルト同シク連帶ノ推定ナキヲ以テ原則トス是レ民法第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定アル所以ニシテ保證人ハ(第一)ニ先ツ主タル債務者ニ催告スヘキ旨ヲ請求スルノ權利ヲ有シ(第二)ニ檢索ノ利益ヲ有スルモノナリ

商業上ノ關係ニ於テハ商取引ヲシテ鞏固ナラシメ信用ヲ増進シ取引ヲシテ迅速ナラシムルコトヲ勉メザルヘカラス故ニ保證債務ニ付テモ亦一般ノ債務ニ於ケルト同シク當事者間ニ反對ノ意思表示ナキ限りハ連帶ヲ推定スルヲ可トス商法第二百七十三條第二項ハ此主旨ニ外ナラス同條ノ規定ニ依リ連帶ヲ推定スヘキ場合ハ左ノ如シ

(第一) 主タル債務ヲ發生セシメタル行為カ主タル債務者ニ對シテ商行爲ナルトキハ保證自身ハ商行爲ナルト否トヲ問ハズ主タル債務者及ヒ保證人間ニ連帶ヲ推定ス

(第三) 保證自身カ商行爲ナルトキハ主タル債務者ノ行為カ商行爲ナルト否トヲ論セス連帶ヲ推定ス

以上列記シタル二箇ノ場合ニ於テハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行為ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ仍ホ連帶ヲ推定スルモノトセルニ拘ハラヌ商法第二百七十三條第一項ノ場合ニ於テ各債務者カ各別ノ行為ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキハ連帶ヲ推定セザルモノトセリ是レ債務ノ性質ヨリ生スル區別ニシテ通常ノ債務ニ於テハ同一ノ行為ニ因リ發生シタル債務ノ外其債務ハ互ニ相關連スルモノナリト推定スルハ不當ノ事ナリ反之保證債務ハ從タル債務ニシテ常ニ主タル債務ニ伴ヒ必ス之ト關係ヲ有スルモノニシテ主タル債務ト從タル債務トハ各別ノ行為ニ依リテ發生シタル場合ニ於テモ仍ホ其間ニ主從ノ關係ヲ有スルモノナリ故ニ此主從ノ關係アル債務間ニ連帶ヲ推定スルハ不當ノ事ニ非ルナリ

連帶及ヒ連帶保證ノ効力ハ民法第四百三十二條以下及ヒ第四百五十四條ノ規定スル所ニシテ別ニ説明ヲ要セス

### 第八節 報酬

他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲シ若クハ他人ノ爲メニ勞役ニ服スル場合ニ於テ報酬ニ關スル特約ナキ時ハ其行為者ハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ヘキヤ否ノ問題ニ就キテハ民法ハ概括的ノ規定ヲ設ケス然レトモ民法第六百四十八條ノ規定(他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲シタル場合及ヒ同第六百五十六條ノ規定他人ノ爲メニ法律行為ニ非サル行為ヲ爲シタル場合)ヲ觀ルトキハ特約アルニ非レハ其行為ニ對スル報酬ヲ請求スルコトヲ得サルモノノ如シ抑モ商人カ資本ヲ投下シ勞力ヲ費シテ營業ヲ營ムハ皆營利ノ爲メニシテ營利ノ目的ナクシテハ之ヲ商ト稱スルコトヲ得サルモノナリ此ノ如キ營利ノ觀念ハ商事ニ缺クヘカラサルモノナルヲ以テ苟モ營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行為ヲ爲シタルトキハ亦營利ノ目的ヲ以テ爲シタルモノナリト看做スヲ至當トス是レ商法第二百七十四條ニ於テ反對ノ特約ナキ場合ニ於テハ行為者ハ報酬ヲ請求スルノ權利アルコトヲ規定セル所以ナリ

### 第九節 利息

(第十一號)

### 財產目錄

種類	摘要	金額
貸付金證書	三十口	二九九〇〇〇〇
當座預金貸越	三十枚	一三〇〇〇〇〇
割引手形	十五枚	五一四七一〇〇
荷爲替手形	十枚	四三〇〇〇〇〇
國債證券	券面七千圓	五五〇六〇〇〇
地方債證券	券面二千圓	二〇〇〇〇〇〇
他店へ貸	何箇所	二九五二四〇〇〇
營業用地所	三百坪	八〇〇〇〇〇〇
營業用家作土藏	三棟建坪七十坪	一、二〇〇〇〇〇〇
營業用什器	金匣外何點	二五〇〇〇〇〇〇
拂込未済資本金	現株主三十名株式二千株又三社員何名	五〇〇〇〇〇〇〇
金銀有高		三五、九八七〇〇〇
合計		二二、二二三八〇〇〇

簡注規則

右書式中第二號及第九號共ニ銀行ノ貸借對照表ノ圖式ヲ示シタルモノニシテ第二號ハ洋式ニ則リ第九號ハ之ヲ和式ニテ示セシノミ此ニ怪シムヘキハ第二號式ニ於テ借方ト名クルモノハ第九號式ニ於テ資産ト名ケラレ第九號式ノ負債科目ハ第二號式ニ於テ貸方科目ナリ何故ニ資産カ借方ニシテ又借方カ負債ナルヤ第九號式ニ於テ資産ト名クル所ノモノハ營業ヲ恰モ一財團ノ如ク見做シ營業財團ノ權利ニ屬スヘキ科目ヲ舉ケタルナリ從テ其負債ハ營業財團ガ資本主又ハ債權者ヨリ借受ケタル科目ナリ即チ營業財團ヨリ其債權者債務者又ハ資本主ニ對スル貸借關係ヲ見タルヲ以テ資産ハ營業財團ノ權利ニシテ負債ハ營業財團ノ義務ナリ然ルニ第二號式ニ於テハ之ニ反シテ資本主又ハ第三者ヨリ營業財團ニ對スル貸借關係ヲ觀タルモノナルヲ以テ第九號式トハ全ク反對ニシテ貸方ハ資本主又ハ債權者ノ權利ニシテ營業ノ負債ナリ從テ借方ハ債務者ノ負債ニシテ營業ノ權利ナリ此ノ如ク第二號式ト第九號式トニ於テハ各觀察點ヲ異ニスルヲ全ク反對ナル科目ヲ名クルニ至リ大ニ世ノ營業者ヲ誤リタルカ如シ余ハ寧ロ第九號式ノ主義ニ左袒スルモノナリ何トナレバ貸借對照表

ハ營業財團ノ貸借關係ヲ示スヘキモノナルヲ以テ營業ヲ我トシテ編製セサルヘカラサルナリ會社ノ貸借表ニ至リテハ會社即商人ナルヲ以テ此理益明白ナリトス

第十一號式ハ銀行ノ財産目錄ヲ示シタルモノナリ而シテ其債權ヲモ掲ケタルハ舊商法ノ動産不動産ト限リシニ勝ルコト明カナリ然レトモ第十一號式ヲ取リテ第九號式ノ資産ノ部ト比較スルトキハ如何ノ差異カアル始ト同一リト云フモ不可ナキカ如シ此ノ如クナレハ特ニ財産目錄ヲ作ラシムル必要無カルヘシ財産目錄ノ摘要欄ニ於テ例ヘハ貸付金證書ノ三十通トアルモ其價格ハ合計ノミヲ掲ケタルニ於テハ尙ホ營業財團ノ狀態ヲ詳ニスルコトヲ得サルヘシ宜シク其各通ニ就テ目錄調製ノ際ニ於ケル價格即損失トナルベキ部分ヲ控除シタル金額ヲ記載セシメサルヘカラス新商法第二十六條ノ趣旨ハ此ニ在ルナリ財産目錄及ヒ貸借對照表ハ商人開業ノ時又會社ニ在リテハ設立登記ノ時ニ之ヲ作リ又毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラス又年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ之ヲ作ルコトヲ要ス



財産目録及ヒ貸借対照表ハ普通商人ニ在リテハ先ツ開業ノ時ニ之ヲ作り會社ニ在リテハ會社設立登記ノ時ニ之ヲ作ルコトヲ要ス舊商法ハ會社ニ在リテモ開業ノ時ニ之ヲ作ラシムル規定ナリシカ實際會社ノ開業ハ設定登記後數多ノ日子ヲ隔ツルコトアリ而シテ設立登記後ハ會社ハ獨立シテ權利義務ノ主跡タルヲ以テ開業前ト雖モ設立登記ヲ終リタルトキハ其財産關係ヲ明ニスルコト必要ナリ故ニ新商法ハ先設立登記ノ日ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要スト改メタルナリ又財産目録貸借対照表ハ年々一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラス又年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ配當期毎ニ之ヲ作ラシム蓋シ配當ヲ爲スニハ決算ヲ爲サハルヘカラス決算ヲ爲スニハ財産目録貸借対照表ヲ明カニセサルヘカラス

商人ハ其商業帳簿及ヒ營業ニ關スル信書ヲ十年間保存スル義務アリ新商法ニ於テハ舊法ノ如ク商業帳簿ニ法律上ノ證固力ヲ與フル主義ヲ採ラス蓋シ帳簿ニ法定證固力ヲ認ムルハ民事訴訟法ノ探證自由ノ原則ト抵觸スルヲ以テナリ然レトモ商業帳簿及ヒ營業上ノ信書ハ商業上ノ法律關係ノ爲メニハ有力ナラ

證據トナルヘキモノナリコサツク氏曰ク商業帳簿ニ營業者ノ不利益トナルヘキ記載アルトキハ是營業者ノ裁判所外ノ自白ナリ若又營業者ノ利益トナルヘキ記載アルトキハ營業者ノ裁判所外ノ立證ナリト商業帳簿カ事實上有力ナル證固トシテ參考セラルヘキハ勿論ナリト雖モ其如何ナル程度ニ於テ効力アルヤハ各事件ニ關シテ裁判官ノ認定スル所ナリ

備考 本年六月八日大藏省令第二十四號ヲ以テ銀行條例施行細則ヲ改定シ新商法實施ノ日ヨリ之ヲ施行セリ然ルニ省令中財産目録ノ書式第九號及第十一號ハ舊施行細則所掲ノモノト異ナルコトナク單ニ積極財産ノ科目ヲノミ掲ケタルハ商法第二十六條ノ規定ニ違反スルノ疑ナキ能ハス

商法第二十六條ハ明ニ財産目録ニ債務ヲモ記載スヘキコトヲ規定シタリ然トモ財産目録ニ記載スヘキ債務科目ハ必スシモ貸借対照表ノ負債科目ト一致スルモノニ非ス何トナレハ貸借対照表ノ負債ノ部ハ營業カ第三者ニ對スル債務關係ノミナラス營業カ金庫資本主ニ對スル債務ヲモ包含スルモノナリ營業者カ營業資本ヲ他ヨリ借入レタルト否トニ拘ハラズ常ニ





スルハ非ラサルナリ

三四

然レトモ其利益ノミヲ享有シテ苦痛ヲ後世ニ貽スハ善ト爲ス所ニ非ラス其經費ニシテ生産的ニ使用セラレ後世其潤澤ニ浴スルトモ必シモ均當ニ此カ負擔ノ一部ヲ後世ニ貽スノ必要ヲ見ルコトナシ故ニ苟クモ其經費ノ性質此カ收入ノ方法等ニ於テ結局租稅ニ依ルモ害ナケレハ國債ヲ捨テ、租稅ニ依ル可キコト言フ埃タス此點ニ於テ失敗ノ歴史ヲ繰返セシハ佛蘭西トス第一次ニ佛蘭西ハタリミヤ戰爭ニ於テ千八百五十五年ニ一回翌年ニ二回ト前後三大國債ヲ募集シ其實收高ハ十五億三千八百二十四萬三千九百四十八法ニシテ其元金高ハ二十二億百五十萬六千八百八十法其利子七千七百七十萬九千四百法ヲ増加セリ勿論十五億餘法ヲ一兩年間ニ全然租稅ニ依リテ徵收センコトハ不能ノ業ナルヘキモ戰爭ノ當初ニ在リテ増稅又ハ新稅ヲ起シテ一割五分乃至二割ヲ増加スレハ少クトモ國債高ノ三分ノ一ハ此ヲ減少スルコトヲ得ヘカリシナリ

「ボリユー」氏ノ說ニ依レハ郵便稅減少ノ禁止鹽稅入市稅ノ復舊地租ノ附加稅動產移轉稅ノ設定時期ヲ早クスル等ニ因リ二億九百萬法ヲ得ヘク之ヲ

千八百五十八年迄繼續シテ八億一千八百萬法ヲ得可ク戰後其増稅ヲ不便トシ其幾分ヲ廢止シ凡ソ六億四千萬法ヲ保存セントスレハ唯九億五千餘萬法ノ實額ヲ借入レ國債額面ヲ十五億法余ニ増額シ公債證書ノ發行高少クレハ其價格比較的高カルヘキヲ以テ利子モ年々四千八百法ニテ足レリトス云々

第二次ニ伊太利戰爭ニハ又實收額五億千六百六十六萬七千八百七十八法ヲ借入レ公債ノ額面ハ八億五千五百七十三萬七千七百七十七法ニシテ利子ノ仕拂額ハ二千五百七十七萬三千三百七十法ヲ増加セリ此場合モ舊稅ノ復舊及ヒ二三ノ附加稅ニ依リテ二億乃至二億五千萬法ノ國債ニテ此カ費用ヲ辨償スルコトヲ得タルモノナリ其後佛蘭西政府ハ千八百六十二年同六十四年同六十八年ニ三回公債ヲ募集シ其實收額ハ十三億三千萬法余ニシテ額面價格ハ十五億二千八百萬法餘其利子四千五百八十五萬六千七百七十四法ナリ而シテ一方ニハ「クリミヤ」戰爭後各種ノ租稅ヲ廢止又ハ減率シ千八百四十八年ヨリ同六十五年ヲテノ増減ヲ見ルニ減少ニ係ルモノ三億三千七百四十四萬九千法増加ニ係ル

モノ三億二千八百五十四萬四千九百十法ニシテ減少ノ多キコト八百餘萬法ナ  
 ルニ反シ同期間内ニ政府ノ借入高ハ實收額三十五億餘法ニ上レリ故ニ此十七  
 年間此ノ増減ノ間ニ調和ヲ求ムレハ國債ノ半ハ此ヲ減少スルコトヲ得シヤ疑  
 ヲ容レサルナリ蓋シ稅法ノミヲ以テスレハ兎モ角國債ヲ起スノ急アルニ際セ  
 ハ有害ニシテ措ク可ラサル惡稅ニ非サル限リハ暫ク之ヲ保存シ後世國債ノ元  
 利仕拂ノ負擔ヲ減少スルコト最モ必要ノ方便ト謂ハスンハ非ラス  
 猶ホ租稅論者中ラツソフヒリボト一ノ如キ極端ナル非常稅論ヲ主張スル者  
 アレトモ事實全ク不能ノ空論タルヲ以テ又此ニ論述スルノ要ヲ見ス  
 要之臨時費ノ支出カ豫期シ難キモノタルト否トヲ論セス國債ノ募集ハ一國ノ  
 財政上止ムヲ得サル方法ニシテ唯其效果ノ著シキ丈クニ濫用ノ弊生シ易ク其  
 害毒亦甚タ大ナルヲ以テ能ク時ト場合ニ從ヒ慎重ナル攻究ヲ要スルコト言ヲ  
 俟タス隨テ一朝非常ノ需要アルニ際シテハ常ニ絕對ニ國債又ハ租稅ノ方法ニ  
 依ルコトヲサケ兩々相埃ヲ能ク其調和ヲ計リ以テ財政ノ整理ヲ期セスンハ非  
 ラサルナリ

余ハ收支適合論ノ總論トシテ國家カ財政上臨時ノ支出ヲ要シ又此ヲ填補スル  
 方法トシテ官有財産ノ拂下非常準備法租稅ノ新設及ヒ増率及ヒ國債ノ募集ヲ  
 列舉シ逐次其概念ヲ叙述レタリ而シテ今ヤ各國ノ財政ヲ通シテ國債ノ方便ヲ  
 採ラサルハナク財政ヲ以テ直チニ國債財政ヲ意味スルニ至レリ而シテ前二者  
 ハ今日ニ於テハ收支適合ノ方法トシテ殆ト認メラルヽコト無キニ至リ租稅ハ  
 其主タル効果ヲ有スル經常收入論ニ於テ既ニ攻究セラレタレハ是ヨリ收支適  
 合ノ方法トシテ首要ナル國債ソノモノニ付キ此カ本論ニ入り其概念ヲ講述ス  
 ル所アル可シ

## 第二章 國債ノ發達

國債ハ實財ニ關スル社會現象ノ一タルヲ以テ其發達ハ又常ニ社會ノ變遷ニ隨  
 伴ス可キコト自明ノ理ニ屬ス而シテ社會ノ變遷ハ政治ニ法律ニ經濟ニ總テ錯  
 綜紛糾ヲ極ムルカ故ニ國債ニ於テモ此カ沿革發達ニ至リテハ固ヨリ精確ヲ期  
 スルコト能ハス國債ノ歴史ヲ叙述スルハ本論ノ旨トスル所ニ非サルヲ以テ茲  
 ニ國債ノ發達ニ付キ唯大脉ノ概念ヲ知ルニ止メントス

國債ノ起原發達ヲ通觀スレハ其着眼ノ點ノ異ナルニ從ヒ幾多ノ分類ヲ爲スコトヲ得可シ

三八

一、債務者ヲ標準トシテ觀察スレハ元首其他主權ヲ把持スル者カ各自一私人トシテ起債スルト國家ヲ代表シテ起債スルノ別アリ換言スレハ主權者自體カ債務者タル場合ト國家カ債務者タル場合ノ別アリ勿論前者ノ場合ト雖モ主權者ハ其債務辨濟ノ實ニ供セシカ爲メ其主權ヲ行使シテ國民ヨリ賦課徵收スルヲ以テ例ト爲スカ故ニ結局國民全般カ債務ヲ負擔スルコト、爲ル可キモ正面ヨリ觀察スレハ其債務ノ發生及ヒ消滅ニ付キ國民カ豫メ此ヲ承認スルト否トノ別ヲ存スルモノトス

事實國務ノ費途ニ供セラレタル債務カ必シモ國債ト謂フ可カラサルト共ニ主權者カ起債セル債務モ亦必シモ國債ト謂フ可カラス古來元首カ起債セシ例甚タ多ク而モ其大部ハ單ニ元首身體ノ需要ヲ充タスニ過キスシテ純然タル私債ト見ル可キモノナリ然レトモ其間自ラ國債ノ性質ヲ備フルモノ無キニ非ラス即チ軍事費トシテ起債セル場合ノ如キ縱令

二

元首一己ノ意見ニ依テ企テラル、モ仍ホ其國民ヲ保護シ其領土ヲ擴張シ其國威ヲ發揚スル等公共的ノ性質ヲ帶フルモノニシテ國債タルヲ妨ケサルモノアリ國家ノ觀念發達シ公私ノ別明カナルニ從ヒ國務ノ費途ニ供セラレル可キ債務ハ國民ヲ代表スル議會ノ協贊ヲ經由シ所謂真正ナル國債ハ立憲國ニ於テ始メテ之ヲ見ルヲ得可シト云フニ至レリ故ニ起債者ヲ標準トシテ國債ノ變遷發達ヲ觀察スレハ起債者カ單ニ一個人トシテ起債シ公私ノ別明カナラナリシ時代ト起債者ハ國民全體ヲ代表シテ起債シ公私ノ別明カニ爲リシ時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

債權者ヲ標準トシテ觀察スレハ債權者カ特定人タル場合ト不特定人タル場合ニ分類スルコトヲ得ヘシ數世紀前マテハ國債ハ多ク特定人ニ對シテ借入レラレシモノニシテ我邦維新前諸侯ノ起債セルト其趣ヲ一ニシ殊ニ以太利獨逸等ノ諸國ニ在リテハ都市ヨリ借入レタル場合甚タ多シ所謂國債借入ノ時代ニシテ當時租稅又ハ官有財產等ノ物上擔保ヲ附スルヲ例ト爲セシニ拘ハラヌ特定人ヨリ借入レシハ國債ノ信用薄弱ナ

ルコトヲ證スルニ餘アリトス近時國家ノ信用遞増シテ國債ノ真相一觀ノ認ムル所ト爲リ此ニ應ス可キ資本ノ貯蓄又著ルシク増加セシメテ以テ起債者ハ特定人ヲ指定シテ格別ニ妥協スルノ要ヲ見ス政府ハ其契約ノ條件ヲ豫定シテ廣ク之ヲ私人ニ公示シ經濟界ノ自由競争場裡ニ放任シテ需要供給ノ原則ニ從ヒ各個人ノ利己心ニ訴フルヲ以テ足レリト爲スニ至レリ即チ從來先ツ當事者ヲ定メテ後契約ノ條件ヲ定ムルニ反シ契約ノ條件ヲ豫定シテ當事者ノ如何ヲ省ミサルニ至レリ

不特定人ニ對シテ起債スル場合即チ國債募集ノ場合ニモ當初ニ在リテハ自國民ニ限ルコトヲ例ト爲シ所謂外國債ノ募集ハ經濟上非議スヘキモノナルノミナラス政治上絕對ニ准許ス可カラサルモノトシテ理論實際共ニ容レラルハコトナカリシモ文化ノ發達ニ伴ヒ外國債ノ必シモ忌ム可キモノニ非サルコトヲ公認セラレ領土内ノ外人ミナラス領土外ノ外人ニ對シテモ汎ク募集セラルハニ至リタリ蓋シ國債ヲ一般國民ヨリ募集スルコトヲ得ルニ至レハ同時ニ其國費ノ舊來ニ比シテ著ルシク

遞増セルコトヲ示シ又此ニ應ス可キ資金ノ貯蓄ノ豐富ナルコトヲ示スモノナリ故ニ國債ノ額ハ少クトモ其數字ノ上ニ於テ巨大ノ増加ヲ示シ一私人ニシテ又之ニ應シ得可キモノナキニシモ非サレトモ一局都ヨリ巨額ノ資金ヲ移轉セシコトハ經濟上喜フヘキ現象ニ非ラサルノミナラス又一二人ノ人カ巨額ノ債務關係ニ干與スルコトハ政治上ノ弊害ヲ醸成シ易ク一般ノ人民殊ニ各種ノ階級ニ通シテ應募ノ區域ヲ擴充スルコトハ社會問題トシテ寧ロ政府カ進ンテ取ルヘキ方策タリ現時國債募集ノ條件中其拂込時期ノ度數及ヒ其期間一時拂込額ノ多少ニ付キ大ニ斟酌ヲ加フルモノ亦此原由ニ因ルモノナリ

故ニ債權者ヲ標準トシテ觀察スレハ國債ノ起源及ヒ發達ハ特定人ニ依ル時代ト不特定人ニ依ル時代ニ別ツコトヲ得ヘク此ヲ其債權者ノ國籍ヨリ見テ內國債時代外國債時代ニ分類シ又其債權者ニ對スル起債ノ方法ニ由リ國債借入時代外國債募集時代ニ分類スルコトヲ得ヘシ

債務關係ノ當事者ヨリ觀察セシ梗概ハ前述スル所ノ如シ今其體様ヨリ

觀察セル重ナル點ヲ舉クレハ次ノ如シ

甲、償還時期ノ長短ヲ標準トシテ觀察スレハ一時若クハ短期ノ場合ト永久又ハ長期ノ場合トアリ即チ往時信用ノ薄弱ナリシ時代ニ在リテハ短期ニ非スンハ起債ノ目的ヲ達スルコト克ハサリシモ政府ノ信用遞増スルニ從ヒ償還期限ノ延長ハ却テ當事者雙方ノ希望スル所ト爲リ近時發達セシ國ニ在リテハ無期ノ國債ヲ認ムルニ至レリ故ニ償還期限ノ長短ヲ標準トシテ觀察スレハ短期又ハ流動國債時代ト長期又ハ確定國債時代ニ分類スルコトヲ得可シ後者即チ確定國債トハ所謂學者ノ立憲國ニ於テ始メテ見ルコトヲ得可シト云フ真正ノ國債ナリトス

乙、擔保ノ有無ヲ標準トシテ觀察スレハ擔保ヲ付スル場合ト擔保ヲ附セサル場合トアリ往時政府ノ信用薄弱ナル時代ニ在リテハ擔保ヲ以テ債務成立ノ常素トセシハ固ヨリ自然ノ理ニシテ或ハ租稅其他ノ財源ヲ以テシ或ハ官有財產ヲ以テシ時ニハ他國ノ保證ニ依リテ對人擔保ヲ附セシ場合アリ然レトモ現時ニ在リテハ財政紊亂セル特種ノ國ヲ除キテ

ハ皆無擔保ヲ例ト爲スニ至レリ故ニ擔保ノ有無ヲ標準トシテ觀察スレハ擔保附時代ト無擔保時代ニ分類スルコトヲ得可シ

此他或ハ利子ノ有無、證書記名ノ有無、花札ノ有無、課稅物件ト爲スト否ト、強制募集ノ性質ヲ有スルト否ト、生産的ナルト不生産的ナルト、財政上行政上ノ國債ヲ認ムルト否ト等ニ由リ又此カ分類ヲ爲スコトヲ得ヘキモ徒ニ枝葉ニ涉ルノ嫌ナキニ非サルヲ以テ此ニ節畧ス

以上講述スル所ニ據リ國債發達ノ概念ハ略之ヲ知ルニ難シト爲ナス而シテ其各種ノ分題モ要スルニ只信用ノ消長如何ニ關係ス可キコト言フ俟タス所謂經濟ニ於テ實物經濟時代ト云ヒ、漁獵時代ト云ヒ、牧畜時代ト云ヒ、自然時代ト云ヘル當時ニ在リテハ信用ノ觀念未タ發達セス國債ノ制亦之ヲ見ルコトヲ得サリシモ農業時代、貨幣經濟時代、勞力時代ト云ヘル當時ニ變遷シ來ルニ從ヒ、漸次其發生ヲ來タシ彼ノ公私混淆セル國債特定人ニ對スル國債、短期國債、擔保附國債ヲ見ルニ至レリ而シテ信用經濟時代、商工業時代、資本時代、換言スレハ現時文化ノ發達セル諸國ニ於テハ國債ハ急激ナル發達ヲ來シ無擔保ノ國際的永久ノ國



債ヲ見ルニ至レリ國債ノ發達ハ固ヨリ時代ヲ以テ絶對ノ標準ト爲スコト能ハス各國ノ文化ノ異同ニ隨伴スルモノナレトモ上述スル所ニ據リ大畧之ヲ三期ニ分チ重ナル國ノ單簡ナル國債ノ歴史ヲ添ヘ終リニ此ニ對スル概論ヲ述ヘテ本章ヲ了ランスト

#### 第一期 國債ノ發生時期

上古ニ於ケル所謂公私混淆セル時代ニシテ國家觀念ノ幼稚ナル時ニ當リ君主諸侯等カ特定人ニ對シテ自己ノ意思ニ從ヒテ借入ヲ爲セシ時代ナリ其多クハ純然タル私債ニ屬シ君主諸侯ハ先ツ特定ノ自然人又ハ法人ヲ指定シテ金額擔保期間利子等ノ條件ヲ協定シ借用證書ヲ交付セシハ前述スル所ノ如シ然レトモ固ヨリ國民ノ權利義務カ未タ保障セラレサル時代ナリシヲ以テ附隨條件ノ變更ハ固ヨリ償還ノ義務スラ之ヲ全クセサリシコト其例多ク我國徳川家時代ノ如キモ所謂御用金トシテ無擔保ヲ以テ借入レ時ニ償還ノ義務ヲ果サハリシモノ亦之ナキニ非ラス然レトモ原則トシテ常ニ諸侯ハ大坂ノ金主ヨリ米麥等ノ物品ヲ抵當トシテ借入レシモノニシテ其詳細ハ後ニ再述スル所アル可シ

#### 〔國家學會雜誌第百三十七號末松博士ノ「封建時代ノ財政變遷」〕

此等ノ債務中ニモ軍事費其他政治上ノ改革道路ノ新設改修等マ、公共事業ノ費途ニ供セラレ實質上國債ト見ル可キモノ存セシハ亦上述スル所ナリ第一期ノ末葉ニ當リテ國債ト性質ヲ異ニセル今日ノ地方債ト見ル可キモノ又發生セリ彼ノ「マーク」即チ市場ハ紀元第九世紀頃ヨリ漸次永久ニ開設セラレ、ヲ例ト爲スニ至リ封建制度カ兵器ノ改良交通ノ發達等ニ由リ漸次其衰兆ヲ現ハシ地主ノ權力ハ漸次商業家ニ遷リ來ルヤ舊時ノ「マーク」ハ「フライ、スタット」即チ自由都市トシテ漸次諸侯ノ羈絆ヲ脱シ伊太利ノ諸市來因沿岸ノ都府ハ遂ニ純然タル獨立ノ團體トシテ相割據スルニ至レリ此等ノ都市ハ當初貸財ヲ貢獻シテ自治ノ權ヲ購ヒ猶ホ時々王侯ヨリ多額ノ貢獻ヲ強制セラレ一時ノ急ニ應スル爲メ都市自ら起債セシコトアルモ後純然タル獨立市ト爲ルニ至リテハ都市ノ費途ニ充テシカ爲メ屢起債セリ或意味ニ於テハ今日ノ地方債ノ權與ヲ爲スモノニシテ獨逸ニ於ケル自由市ノ市債ハ獨逸ノ統一ト共ニ多ク國債ニ變形シタリ而シテ其諸侯ニ屬スル負債ノ近時中央權ノ實舉カレト共ニ國王ノ負債即チ國

債ト變セレモノ其例甚タ多ク我邦ニ於テモ維新ノ改革ト共ニ明治六年三月第百十五號布告ヲ以テ新舊公債證書發行條例ヲ制定シ明治五年申年マテノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ通債ヲ改メテ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ニハ公債證書ヲ交付シ定期ヲ遂テ之ヲ償却スルコト、爲レリ此法ハ明治八年五月第九十五號布告ヲ以テ改正セラレ弘化元年甲辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年大政更始以後明治四年辛未年七月廢藩マテ及ヒ明治五年申年マテノ間舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債トシ舊公債ハ無利息五十八年賦新公債ハ四分利附二十二年賦トシテ之ヲ償却スルコト、爲セリ

### 第二期 國債變遷ノ時期

耶蘇紀元十六世紀ヨリ第十九世紀ノ初期ニ至ル間ヲ指スモノニシテ國債カ王侯ノ私債ヨリ現時ノ發達セル國債ニ至ル變遷時期トス此時代ニ至リテハ君主私債ノ觀念除却サレシヲ以テ一般ノ信用進増シ管理ノ方法モ序ヲ逐フテ定マリ確定國債無擔保國債等認メラル、ニ至レリ然レトモ前世紀ニ至ルマテ國債ノ

募集ヲ實行セシハ英吉利和蘭等數個國ニ過キス佛蘭西ノ如キハ路易十四世ノ一世ヲ軍事ト奢侈ニ盡セシヲ以テ佛蘭西革命ハ同時ニ財政上ノ革命ヲ示シ然モ其遞増セシ國債ハ皆流動國債ニ屬スルモノナリキ露西亞モ亦「カザリン」二世以後國費常ニ相償ハス中央銀行ノ借入ヲ以テ一時ヲ塗抹シ今世紀ノ初ニ至リ始メテ確立國債ト爲ルニ至リ一方ニハ國債委員ハ內在來ノ國債ノ整理外外國市場ニ起債ノ術ニ當リ今世紀ノ三十年「ニコラス」第一世ノ時ニ至リ漸ク全體整理ノ緒ニ就クニ至レリ英國ニ至リテハ其第二期ノ歴史ハ正ニ第三期ノ發達ヲ見ルモノナルヲ以テ次ニ併述スル所アル可レ

### 第三期 國債發達ノ時期

第三期ニ於ケル國債トハ即チ所謂立憲國ニ於テ始メテ見ルコトヲ得ヘント稱セラル、國債ニシテ即チ其起債及ヒ償還ニ付キ國民力豫メ承認ヲ與ヘタル場合ナルコトハ前述スル所ノ如シ即チ流動國債ノ如ク短期ニシテ其額亦比較的僅少ナラサル國債ハ單ニ大藏大臣ヲシテ自己ノ責任ヲ以テ自由採量ノ餘地ヲ存セシムヘキモノニ非サルヲ以テ今世紀ノ始メヨリ國家ノ觀念ノ變遷ニ伴ヒ

法律思想亦一變シ此起債及ヒ償還ハ之ヲ全然行政官ノ手ニ放任セス立法部ノ監督ヲ要スルコト、爲レリ

講述ノ序次トシテ一言ヲ費スヘキハ我憲法ト國債ノ關係ナリトス由來國債ノ募集及ヒ償還ハ彼ノ租税ノ新設又ハ増率ノ如ク公法上ノ關係ニ非スシテ純然タル私法上ノ法律行爲ナリ單ニ一ノ行政行爲ナリ隨テ法理上毫モ法律ヲ以テ規定スルノ要ヲ見ルコトナシ我憲法第六十二條第一項ハ一方ニ

新ニ租税ヲ課シ及稅率ヲ議更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

ト規定セルニ拘ラス同條第三項ニ於テ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

ト云ヒテ法律ヲ以テス可シト云ハサルハ又之カ爲メナリ從フテ今日マテノ實例ニ於テ常ニ法律ニ依ルハ憲法當然ノ結果ニ非サルト共ニ又國債ノ性質ニ於テ毫モ爲メニ變易セラル、所ナキハ言ヲ俟タス國債ノ募集ニ付テハ唯議會ノ協贊ヲ經ルヲ以テ足レリトス隨テ公安ヲ保持スル爲メ緊急ノ需要アル場合ハ憲法

小爲替振込の注意

近來小爲替の盜難に罹るゝ  
と度々あるを以て小爲替振  
出の際には必ず受取人住所  
氏名欄内(即ち小爲替券面右  
方に在り)へ東京市麴町區富士  
見町六丁目十六番地和佛法  
律學校會計課と記入すへし  
若し右記入なくして盜難に  
遭ふも本校其責に任せざる  
べし

明治三十二年八月九日印刷  
明治三十二年八月十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

發行兼 小 田 幹 治 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金 子 鐵 五 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金 子 活 版 所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治三十二年十二月九日内務省許可